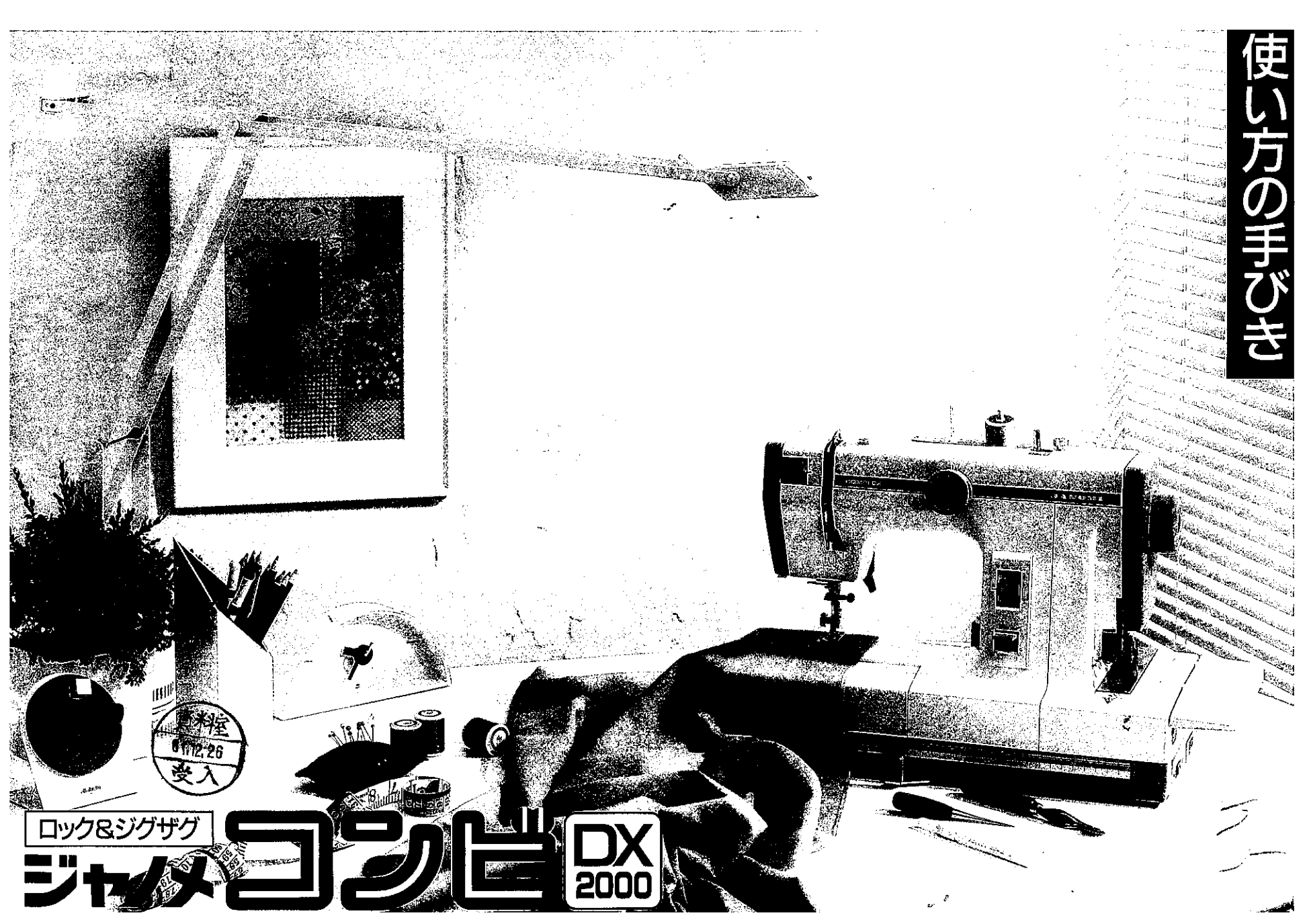


使い方の手びき



料室
0112-26
受入

ロック&ジグザグ

ジャメ コンビ

DX
2000

ジャノメ・コンピデラックスをお買い上げいただきましてありがとうございます。
一台で二役——世界で唯一のミシン『コンピデラックス』は直線・ジグザグミシン
とオーバーロックミシンの機能を持つホームソーイング向きの万能ミシンです。

らくらくソーインガー直線・ジグザグ

- 豊富な実用縫い——直線縫いから、ジグザグ縫い、ボタンホールまで、洋裁に必要な縫いはすべて揃っています。
- 縫い目の選択は、ダイヤルを回すだけ。初心者でもすぐ縫えます。
- ボビンケースのいらぬ水平全回転釜、ボビンの出し入れが簡単でしかも下糸の残量を見ながら縫えます。
- ワンタッチで押え金の交換ができます。
- ターンテーブルをぐるっと回せば、直線・ジグザグ側からオーバーロック側に切り換わります。

らくらくソーインガーオーバーロッカー

- 美しい縫い目の二本糸オーバーロック——布の裁ち端を切りながら裁ち目かがりをします。又、穴糸、毛糸などを用いていろいろな装飾縫いが楽しめます。
- 耐久性抜群のメスは、薄物から厚物まで、シャープな切れ味です。
- 糸調子のセットは、用途別にイラストで表示され、ひと目でわかります。
- 針板と押えを交換すれば、縫い目のあらさを調節して巻き縫いができます。
- 糸こまを糸立て棒に入れたままでカバーに収納できるので、糸かけをする手間がはぶけます。
- ミシン針は市販の家庭用ミシン針を用いています。

目次

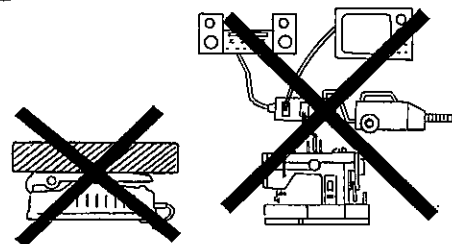
準備	直線・ジグザグの基本縫い	オーバーロック側の使い方
●各部の名まえ《直線・ジグザグ側》……………4	●直線縫い……………19	●準備……………36
●各部の名まえ《オーバーロック側》……………5	●ジグザグ縫い……………20	●布くず案内板のあけ方、しめ方……………36
●標準付属品……………6	直線・ジグザグの実用縫い	●オーバーロック縫いの種類……………37
●補助テーブルのはずし方、つけ方……………6	●三重縫い……………21	●布に適した糸や針を選ぶ目安《ふちかがり縫い》…38
●電源をつなぎましょう……………7	●ボタン穴かがり(ボタンホール)……………22	●針のとりかえ方……………39
●速さの調節になれましょう……………7	●くけ縫い(まつり縫い)……………23	●押えのあげ方、さげ方……………39
●オーバーロックより直線・ジグザグへの 切りかえ方……………8	●ファスナーつけ……………24~27	●糸こま押え、糸こまネットのつけ方……………40
●ミシンの向きのかえ方……………8	●三つ巻き縫い……………28	●ルーパー糸の通し方……………41~42
直線・ジグザグ側の使い方	直線・ジグザグの応用縫い	●針糸の通し方……………43~44
●押えのはずし方、つけ方……………9	●ピンタック……………29	●送り目盛の選択のし方……………45
●送り歯のさげ方……………9	●アップリケ……………30	●糸調子の出し方……………46
●布に適した糸や針を選ぶ目安……………10	●パッチワーク……………30	オーバーロックの縫い方
●針のとりかえ方……………11	●貝形ふちかがり (ブランケットステッチ)……………31	●試し縫いをしましょう……………47
●下糸の準備をしましょう……………12~13	●フリンジ縫い……………32	●ふちかがり縫い……………48~49
●上糸の準備をしましょう……………14~15	●糸を使ったフリンジ……………33	●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い……………50~52
●糸調子を合わせましょう……………16	●ギャザーよせ……………34	●オーバーロックの上手な使い方……………53
●模様を選び方……………17	●ドロンワーク……………35	ミシンの手入れと調整
●縫い目あらさの調節……………17	●ファゴティング……………35	●かまの掃除……………54
●返し縫いのし方……………18		●かまの分解……………54

●おとり扱いについてのお願い

●かまと送り歯の掃除	55
●かまの組立て	55
●送り歯の掃除《オーバーロック側》	56
●切りくずの掃除	56
●電球のとりかえ方	57
●電球のとりかえ方《オーバーロック側》	57
●外装の手入れ	58
●メスの交換	58
●注油のし方	59
●調子がよくないときの直し方	60~63

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないで下さい。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後
 - ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用前に……

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、この《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

- ①長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ②湿気の多いところはさけてください。

●修理、調整についてのご案内

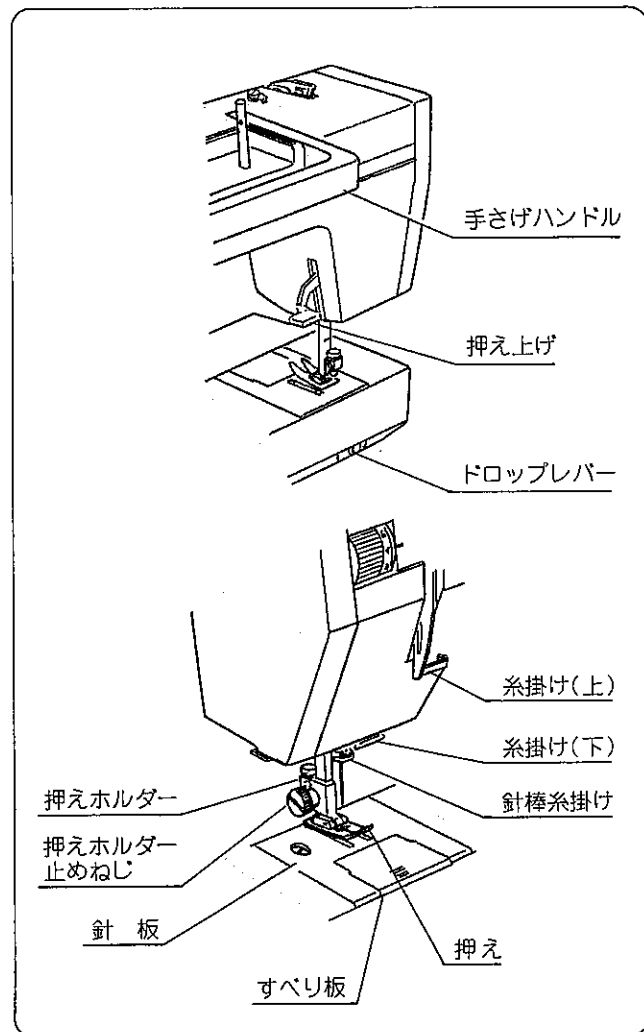
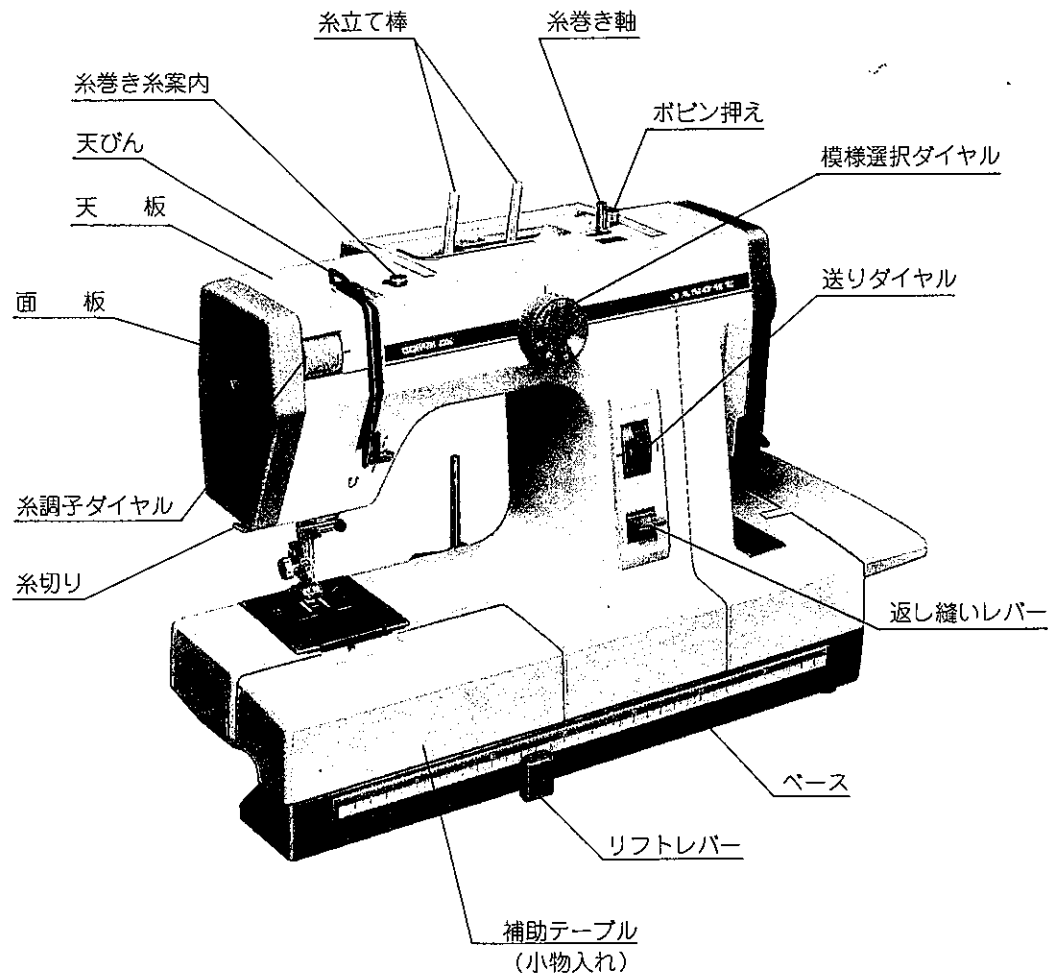
万一不調になったり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(60~63ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

●各部の名まえ

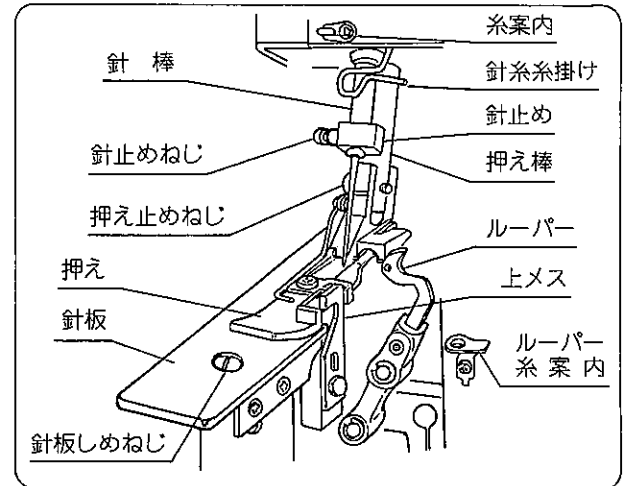
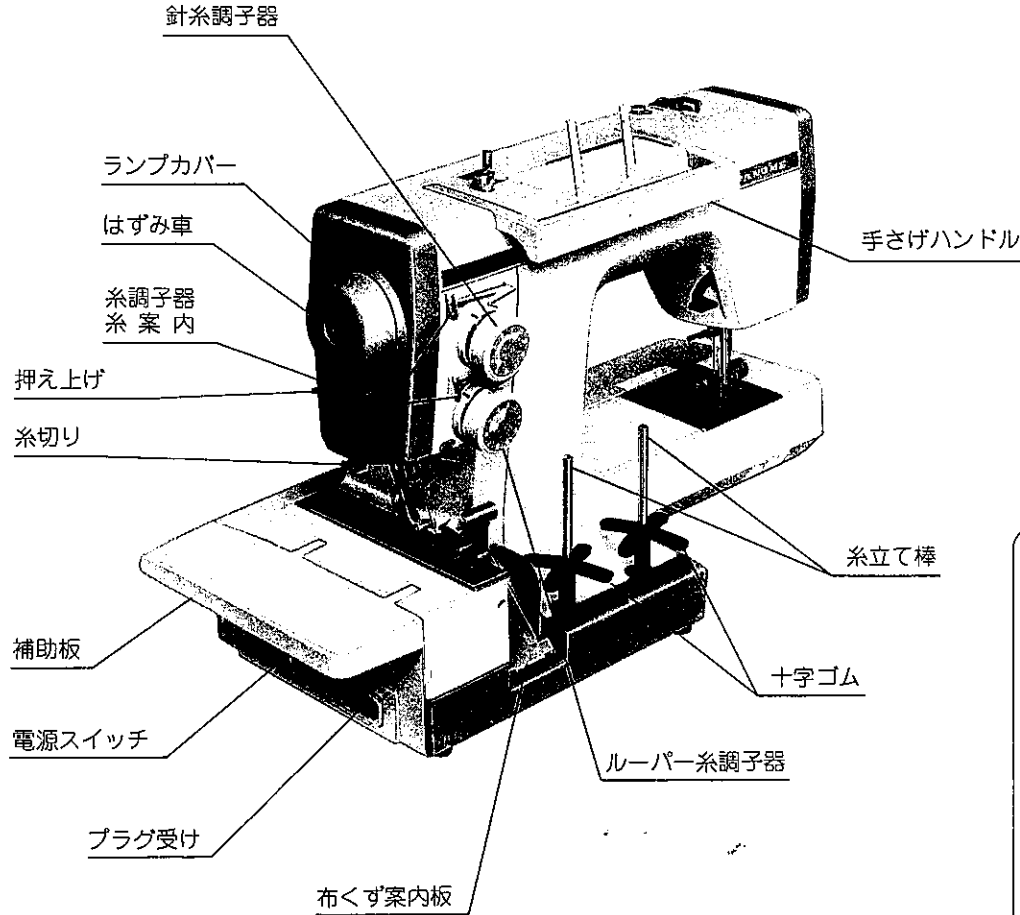
《直線・ジグザグ側》



準
備

●各部の名まえ

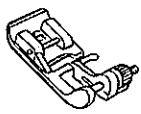
《オーバーロック側》



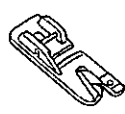
●標準付属品



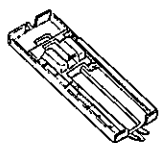
E. ファスナー押え



G. くけ縫い押え



D. 三つ巻き押え



ボタンホール押え



ポピン

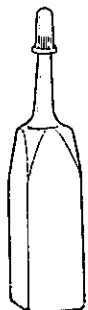


フェルト



(小) (大)

ねじまわし



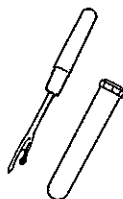
油さし



ブラシ

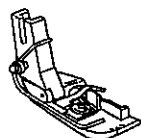


針ケース

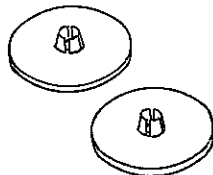


目ほどき

〈オーバーロック用〉



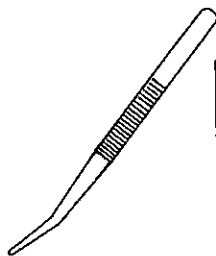
巻き縫い押え



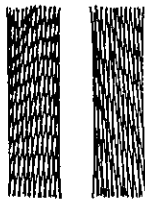
糸こま押え



巻き縫い針板

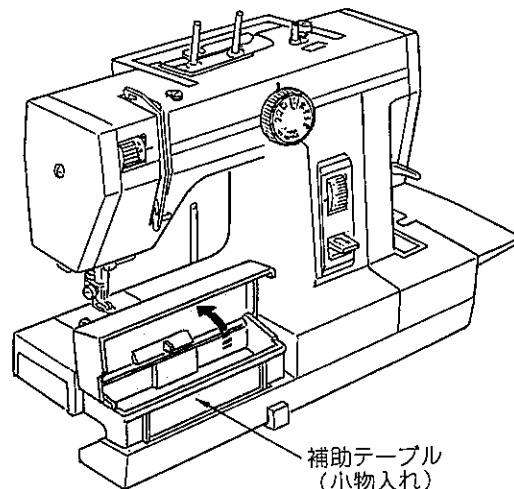


ピンセット

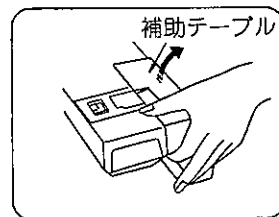


糸こまネット

●補助テーブルのはずし方、つけ方



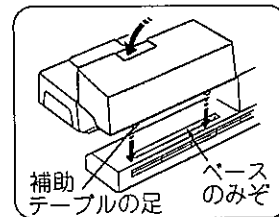
補助テーブル
(小物入れ)



補助テーブル

〈はずし方〉

補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。



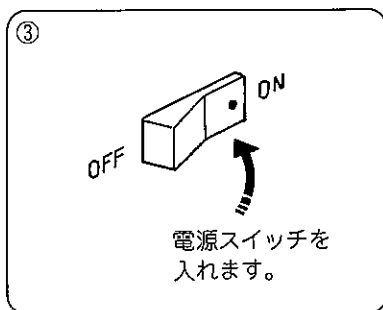
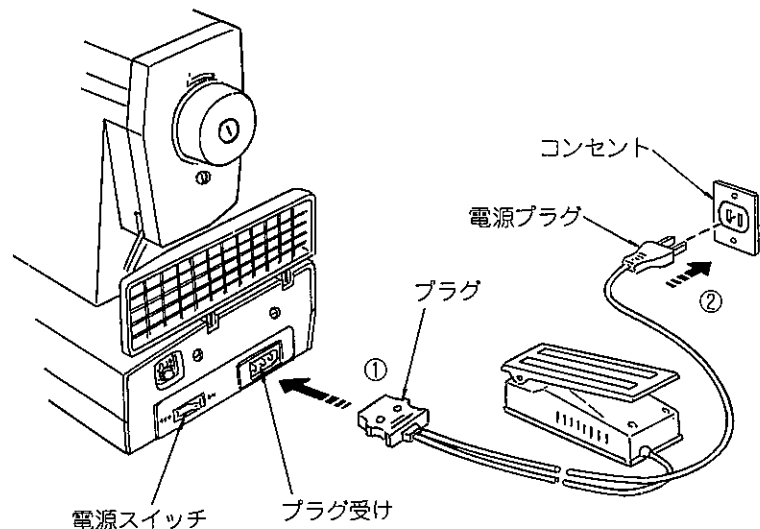
補助
テーブルの足

ベース
のみぞ

〈つけ方〉

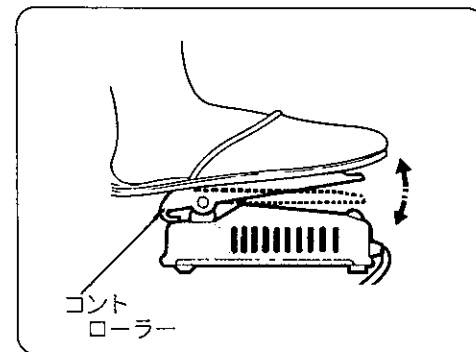
ベースのみぞに補助テーブルの足を合わせてのせ、上から軽く押しします。

●電源をつなぎましょう



- ①電源スイッチをOFFにしてプラグをプラグ受けにさしこみます。
- ②電源プラグをコンセントにさしこみます。
- ③電源スイッチをONにします。

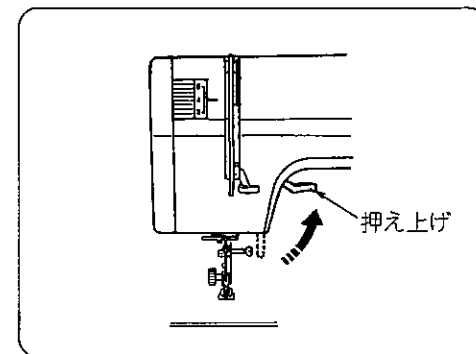
●速さの調節になれましょう



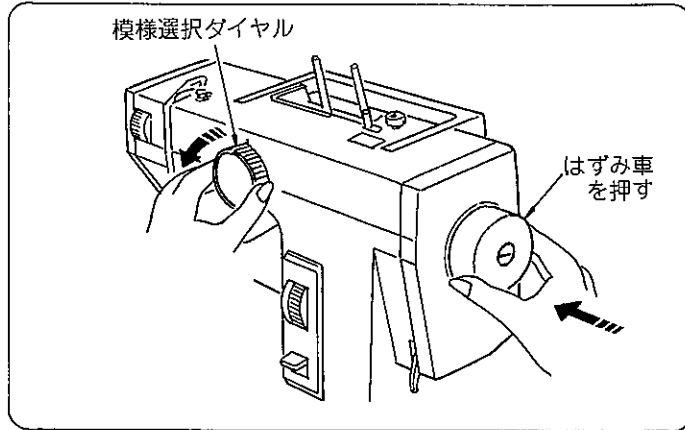
コントローラローラーは、深く踏みこむほど、速くなります。

浅く踏む……………おそくなる
深く踏みこむ……………はやくなる

*押え上げをあげ、コントローラローラーを踏んで、踏みこみと速さの関係になれてください。

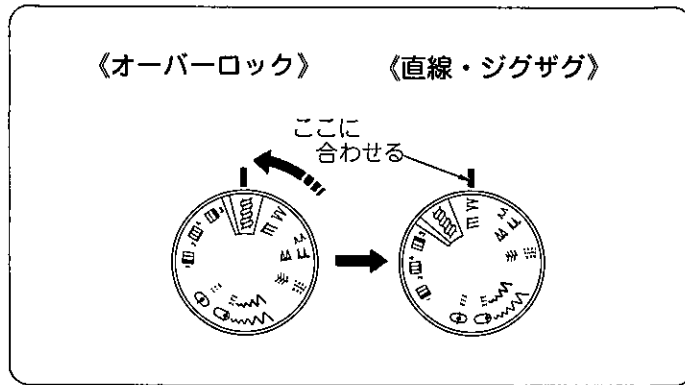


●オーバーロックより直線・ジグザグへの切りかえ方

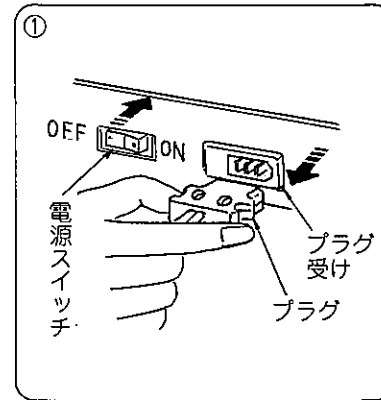


○はずみ車を押しながら、模様選択ダイヤルをまわして切りかえます。

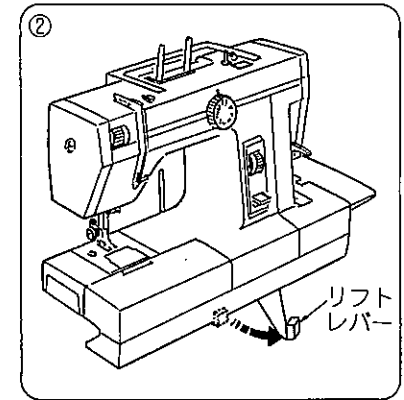
*照明ランプも自動的に切りかわります。



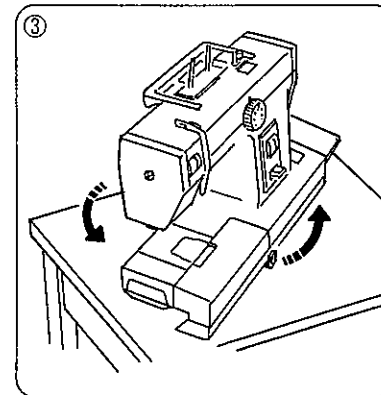
●ミシンの向きのかえ方



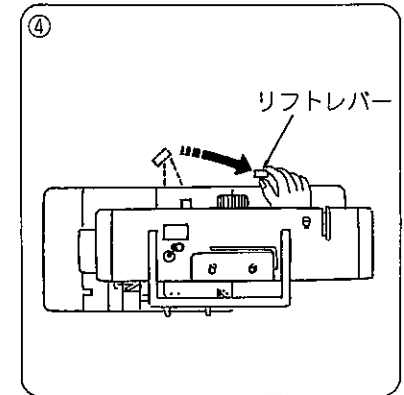
①電源スイッチをOFFにして、プラグをミシンのプラグ受けから抜きます。



②リフトレバーを矢印の方向に動かします。



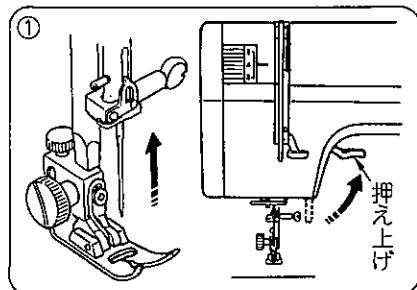
③ミシンをまわして、向きをかえます。



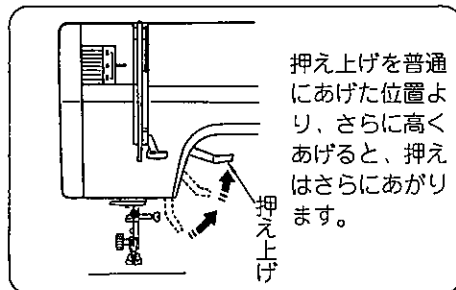
④リフトレバーをもとの位置にもどして、電源をつなぎます。

●押えのはずし方、つけ方

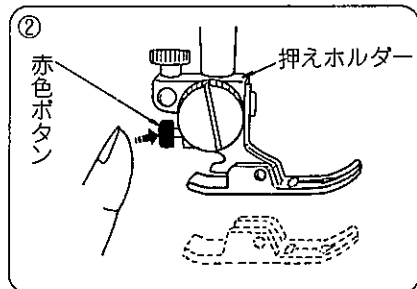
《厚い布を入れるとき》



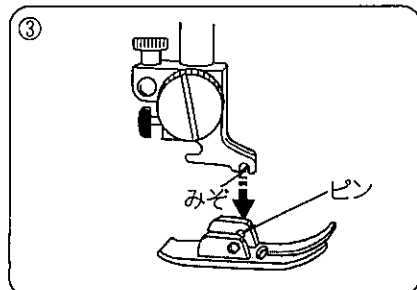
①針をあげ、押え上げをあげます。



*ファスナー押えのつけ方は、ファスナーつけ (24、26ページ) をご覧ください。

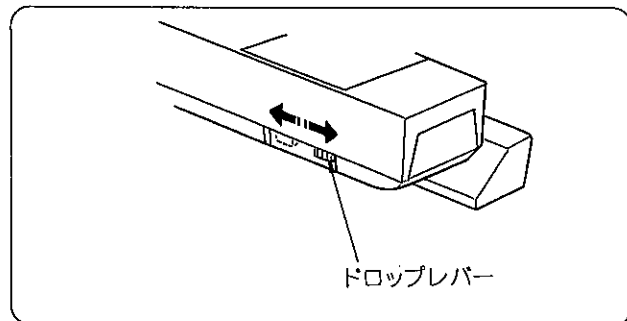


②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

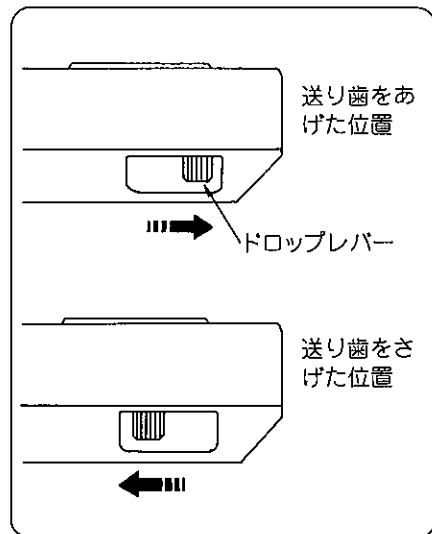


③押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

●送り歯のさげ方


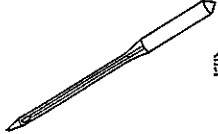


〇しゅう縫いなどのため送り歯をさげたいときは、ドロップレバーを動かします。



*通常は送り歯をあげた位置にセットしておきます。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸 	針 
	木綿	絹	ウール・ 化繊織物	ニット		
うすい布	ローン、 ポイル	シフォン、 ジョーゼット、 オーガンジー	デシン、 クレープ、 モスリン	シングルニッ ト地、 トリコット地	絹糸 80番～100番 綿糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布	ブロード、 サッカー、 ピケ	タフタ、 ファイユ、 サテン	ジョーゼット、 フラノ、 サキソニー	ジャガードニ ット	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
					綿糸 50番	14番
厚い布	デニム、 キルティング 地、 ギャバジン	/	ツイード、 ギャバジン、 コート地	ダブルニット	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
					絹糸 30番 綿糸 30番	16番

*普通上糸と下糸は同じ糸を使います。

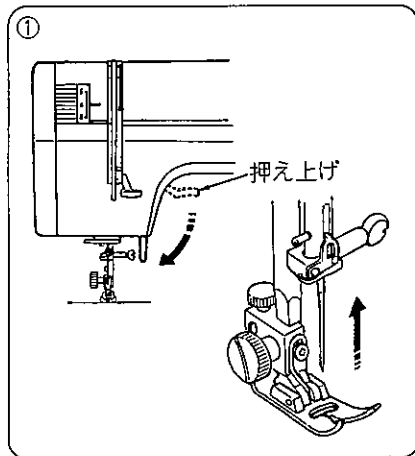
*うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。

*ごくうすい布には、下に紙をしいて縫ってください。

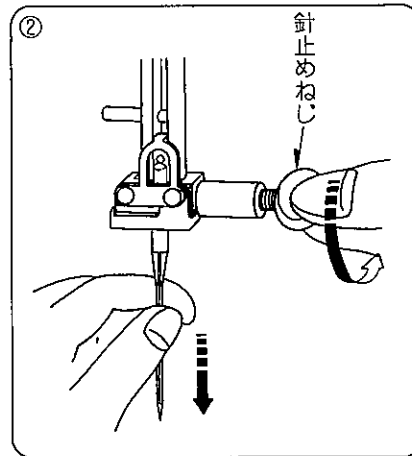
*針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。

*ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

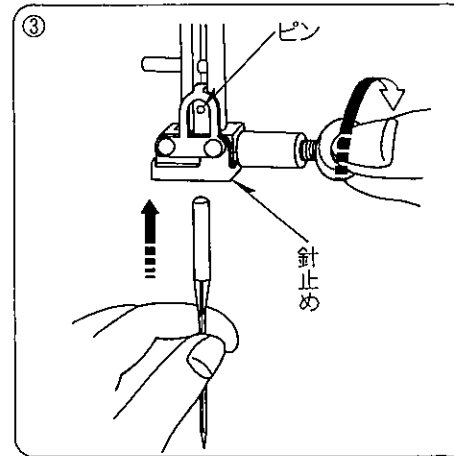
●針のとりかえ方



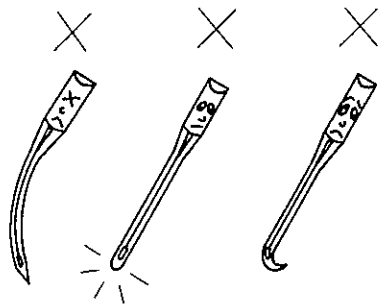
①はずみ車を手前にまわして、針をあげ押え上げをさげます。



②針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。



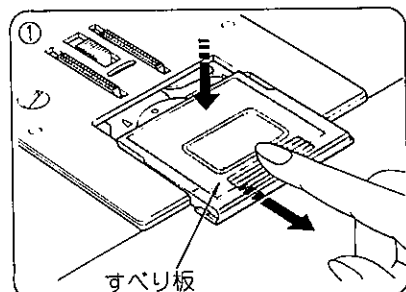
③針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいピンにあたるまで針止めにさしこみ、針止めねじをかたくしめます。



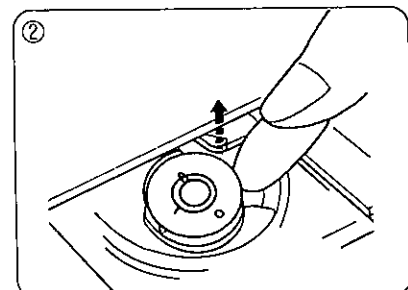
*全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

●下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



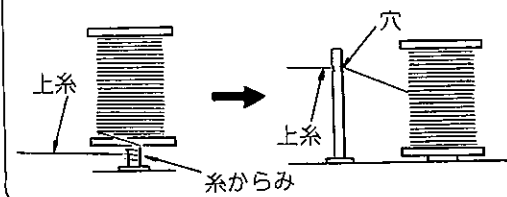
①すべり板を下に押しながら手前に引いてはずします。



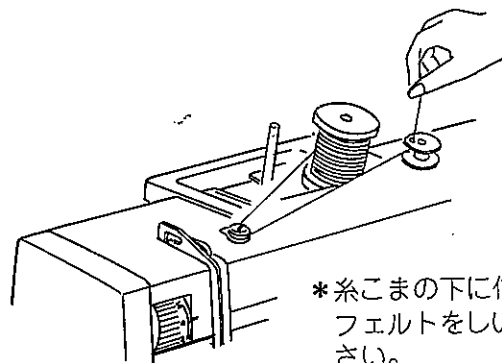
②ボビンをとり出します。

《糸からみしやすい糸のとき》

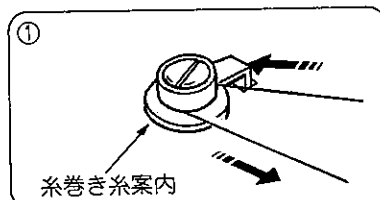
糸立て棒の穴に糸を通すと糸からみが防げます。



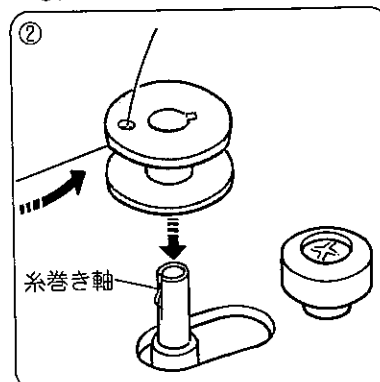
★ボビンに糸を巻きます



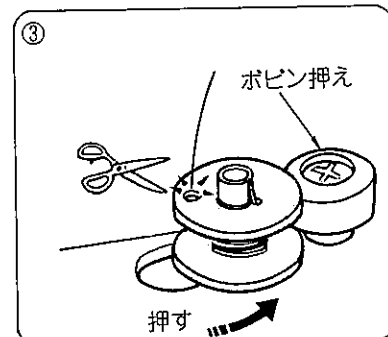
*糸こまの下に付属品のフェルトをしいてください。



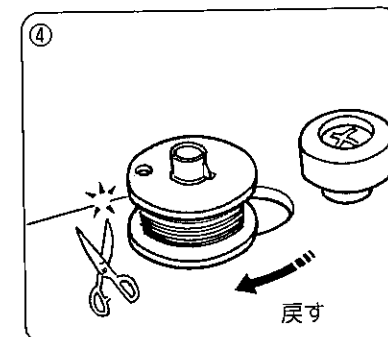
①糸巻き糸案内に、糸こまから引き出した糸を掛けます。



②ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



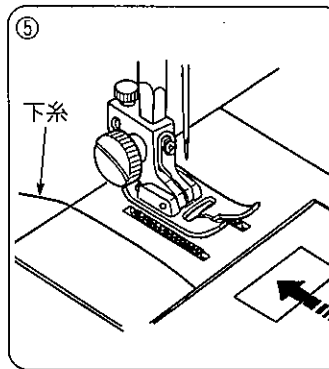
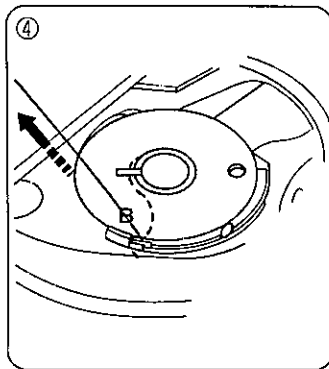
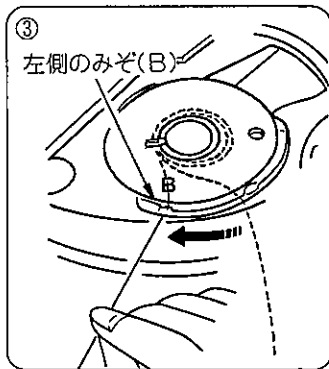
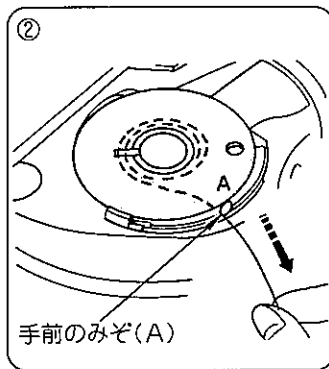
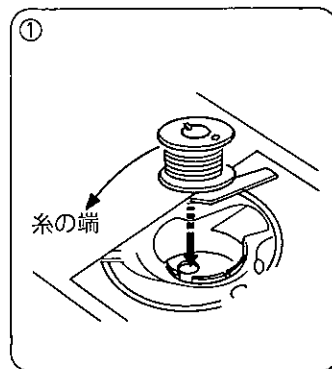
③ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ、糸の端をつまんだまま巻きはじめ、ボビンに糸が三重くらい巻きついたら、ミシンをとめて穴のきわで糸を切ります。



④コントローラーをふたたび踏んで、巻きおったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして、糸を切ります。

*糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

★ボピンをかまにセットします



①糸の端を矢印方向に出し、②糸の端を引きながら、手ボピンをかまに入れます。 前のみぞ(A)に掛けます。

③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通し、左側のみぞ(B)のところに出します。

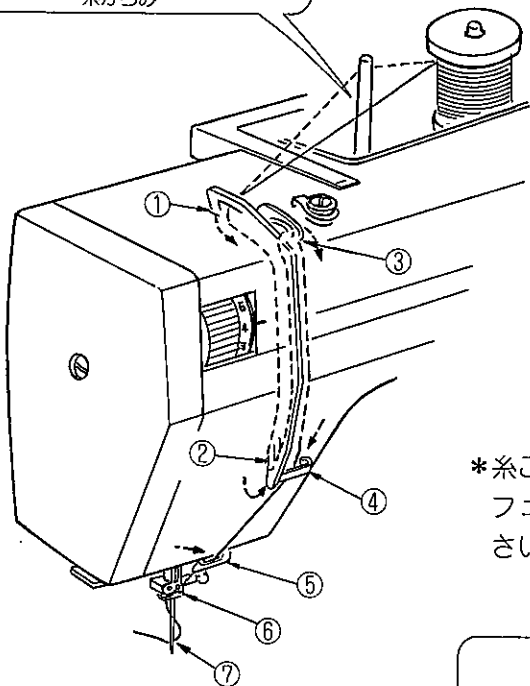
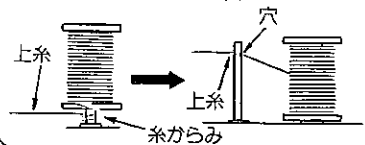
④糸を左側のみぞ(B)に掛けるように向こう側に出します。

⑤下糸を10cmくらい引き出して、すべり板をしめます。

●上糸の準備をしましょう

《糸からみしやすい糸のとき》

糸立て棒の穴に糸を通すと、糸からみが防げます。

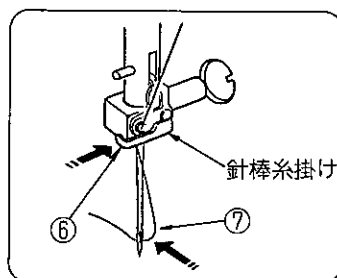
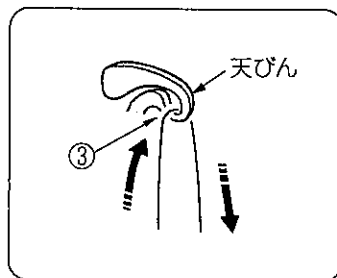


*糸こまの下に付属品のフェルトをしいてください。

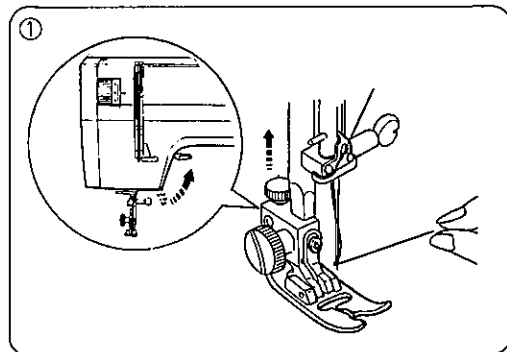
★上糸を掛けます

押え上げをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸こまを押えながら、糸こまから引き出した糸を正しく掛けてください。

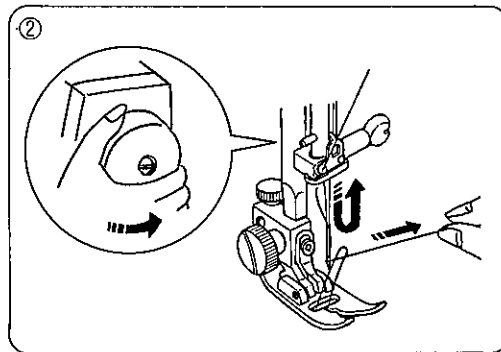
- ①天板糸掛けに巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。
- ②糸案内の下をまわして、右上に引きあげます。
- ③天びんに、左からうしろへまわして右手前に出し、まっすぐ下におろします。
- ④糸掛け(上)に右から左に掛けます。
- ⑤糸掛け(下)に左から右に掛けます。
- ⑥針棒糸掛けに左から掛けます。
- ⑦針に糸を手前から向こう側に通します。



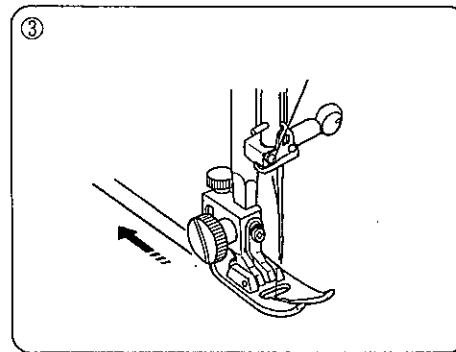
★下糸の引きあげ方



① 押え上げをあげ、左手で、上糸の端を、ややゆるめて持ちます。



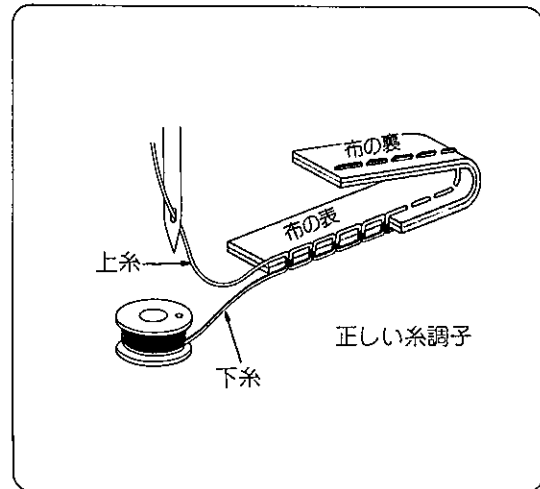
② 右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてあげます。天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③ 上糸と下糸を、押えの下から向こう側に、10cmほど引き出して、そろえておきます。

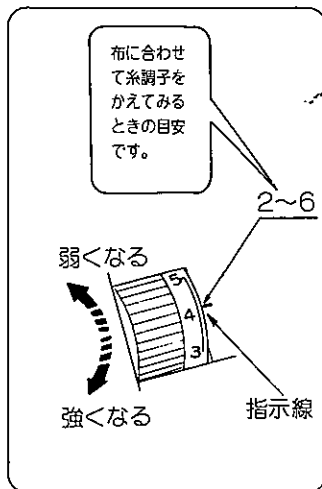
●糸調子を合わせましょう

★正しい糸調子



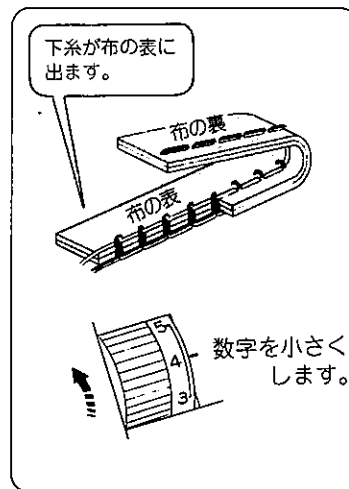
上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわりま
す。

*シグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上
糸が少し出るくらいに調節します。



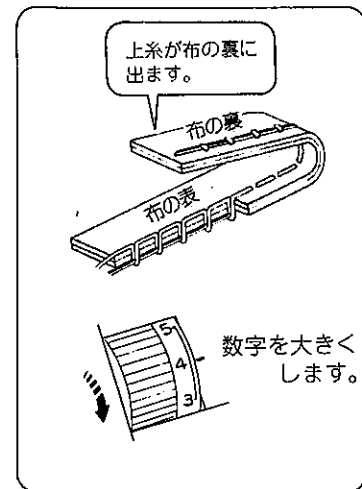
素材や縫い方によって、糸
調子ダイヤルをまわして調
整します。

★上糸調子が強すぎるとき ★上糸調子が弱すぎるとき

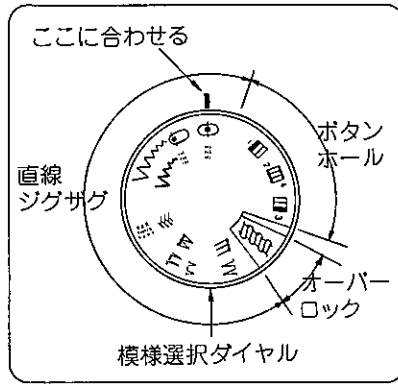


糸調子が正しく調整されていないと、縫い
目がきたなくなり、布にしわがよったり、
糸が切れたりします。

*糸調子は、それぞれの《ミシンのセット》
にその目安を示してあります。



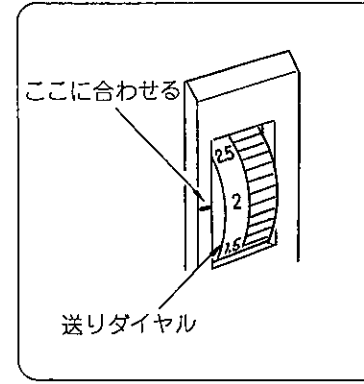
●模様の選び方



○針をあげて模様選択ダイヤルをまわし、模様を選びます。模様を選ぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

* オーバーロックへ切りかえるときは、36ページを参照してください。

●縫い目あらしの調節

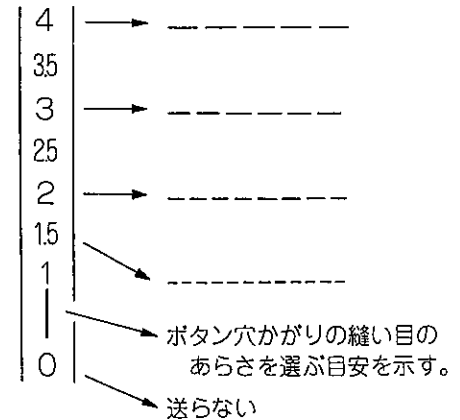


○送りダイヤルをまわして、縫い目のあらしをセットします。

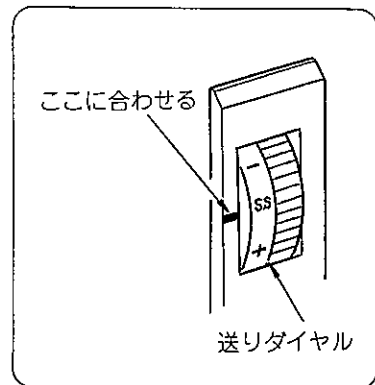
模様選択ダイヤルを(○)に合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、縫い目のあらしは、下図のように変化します。

模様														
送りダイヤル	1.5~4	0.3~4	0.5~1.5	1~3	0.5~1.5	0.3~1	S.S.							
縫い目														

* 針が布にささったままで、模様選択ダイヤルをまわすと、針が、まがったり、折れたりする原因になります。

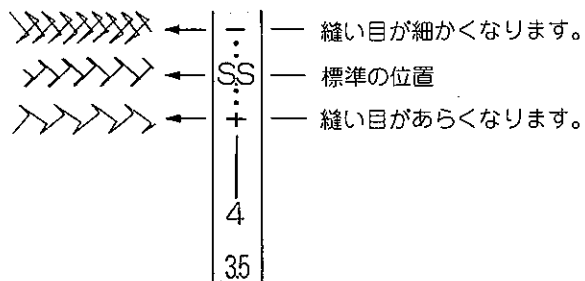


《スーパー模様の選び方》



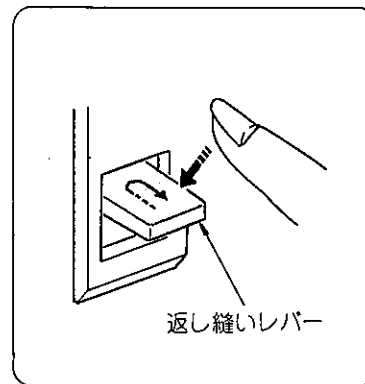
○送りダイヤルをS. S. に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ縫い目は、スーパー模様になります。

《例》



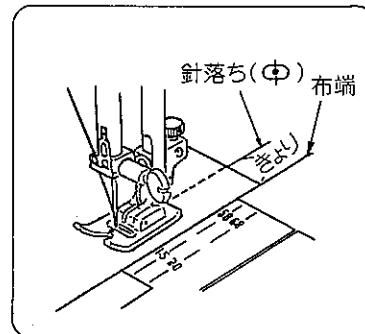
通常、標準の位置S. S. で縫いますが、縫い目のあらさを変えたいときに調節します。

●返し縫いの仕方



○返し縫いレバーを押している間は、返し縫いとなり、指をはなすと、前進縫いにもどります。

★針板ガイドラインの利用

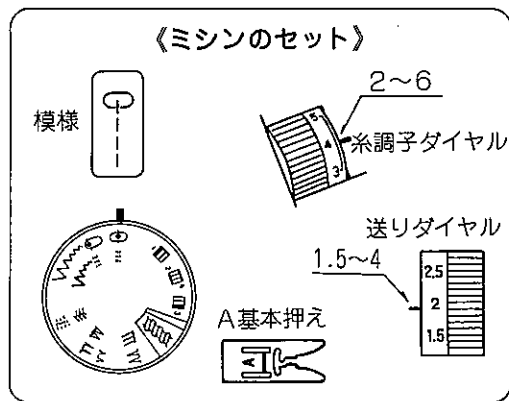


布端を針板のガイドラインに合わせて縫います。

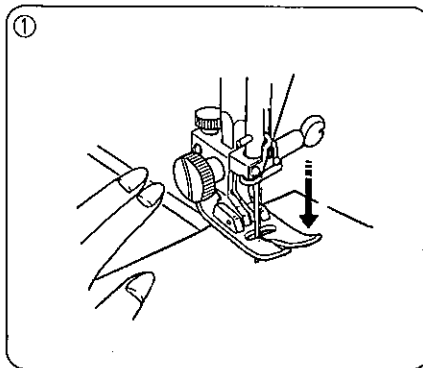
*数字は、針落ち(中)から布端までのきよりです。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
きより (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

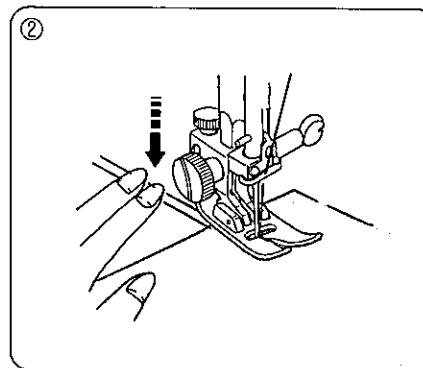
●直線縫い



★縫いはじめ

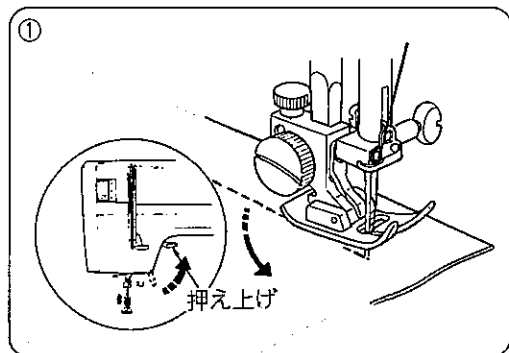


①糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。



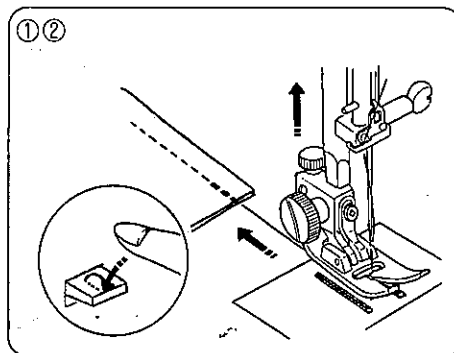
②押え上げをさげて、コントローラを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

★縫い方向をかえるには



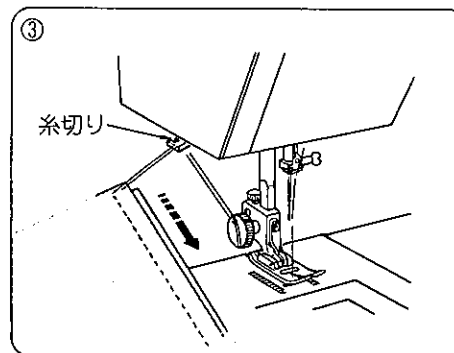
①ミシンを止め、針を布にさしたまま押え上げをあげ、縫い方向をかえます。

★縫いおわりの返し縫い



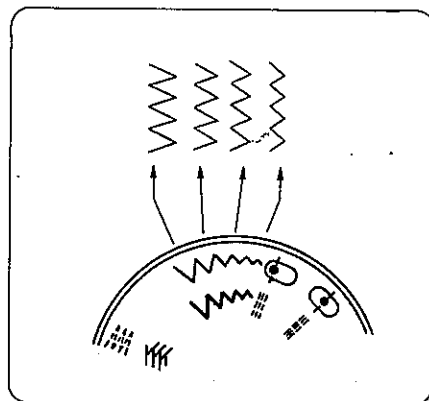
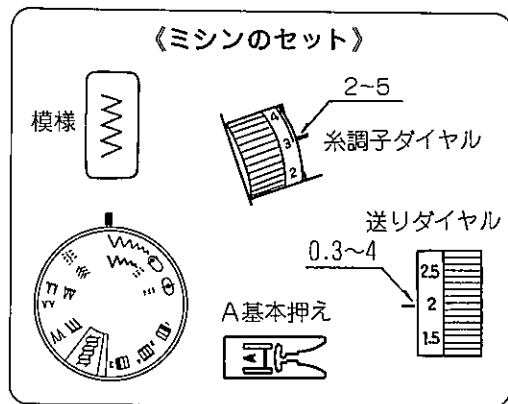
①返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。


②押え上げをあげて、布を向う側に、静かに引き出します。



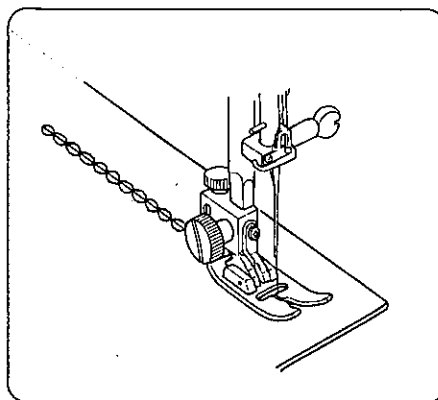
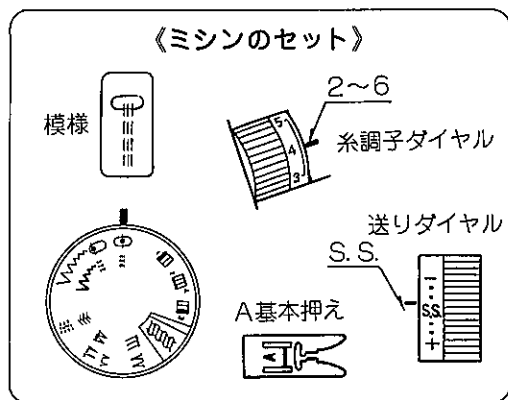
③糸切りで糸を切ります。

●ジグザグ縫い



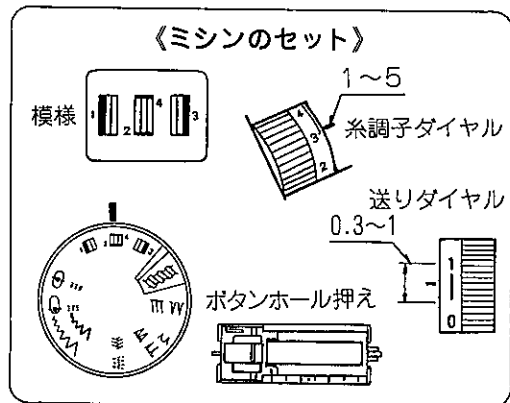
*模様「」の間でかえると
縫い目の巾（ジグザグ巾）は、
図のように変化します。

●三重縫い

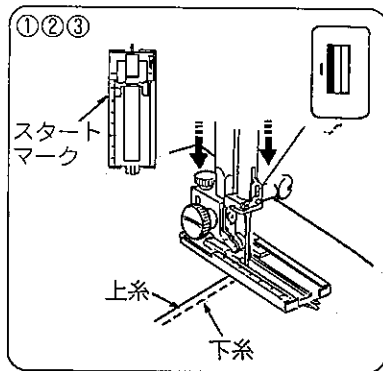


伸縮性のある強い縫い目なので、
補強縫いに便利です。

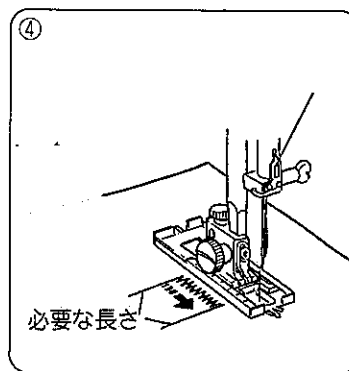
●ボタン穴かがり(ボタンホール)



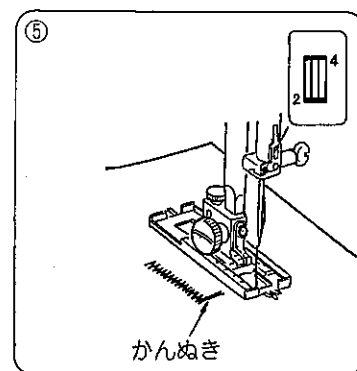
- *縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。
- *伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。



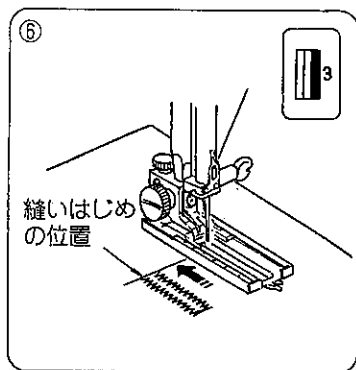
- ①模様 1 を選びます。
- ②上糸を押えの下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
- ③縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



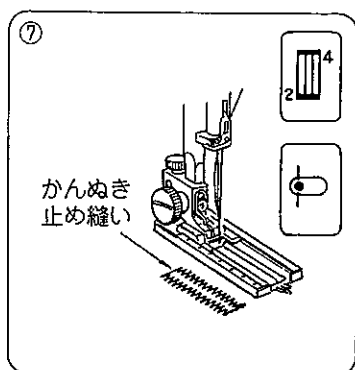
- ④必要な長さだけ縫い、ミシンを止めます。



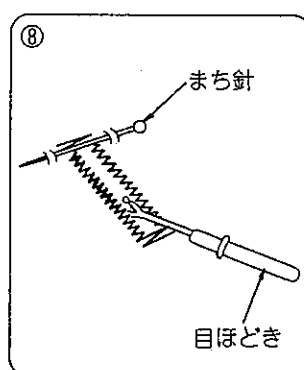
- ⑤針をあげて模様 2 を選びます。かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めます。



- ⑥針をあげて模様 3 を選びます。縫いはじめの位置まで縫い、ミシンを止めます。

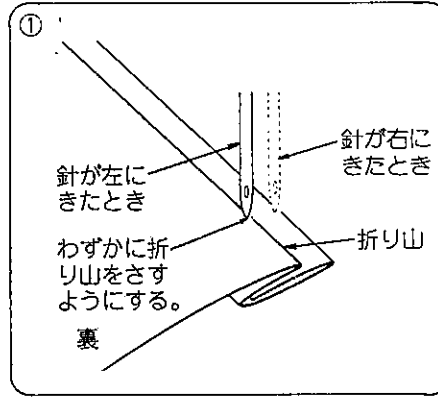
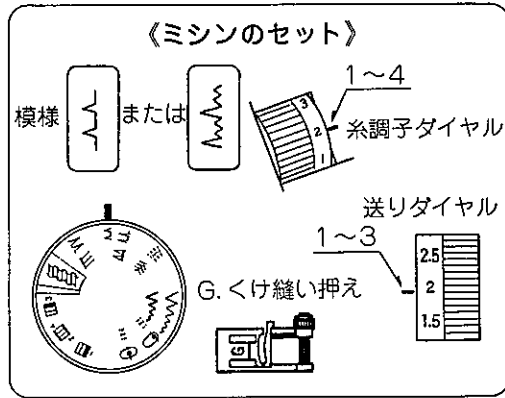


- ⑦針をあげて模様 4 を選びます。かんぬきを5針くらい縫ったら、模様 5 を選び、数針止め縫いをします。

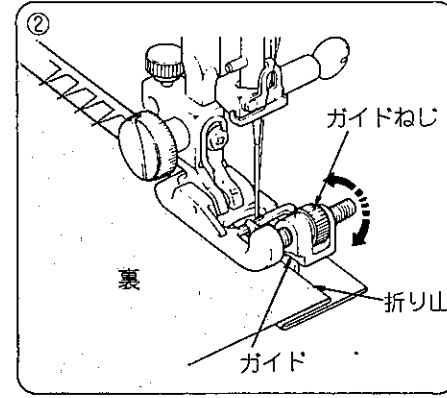


- ⑧かんぬきの内側にまち針を縫いさして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

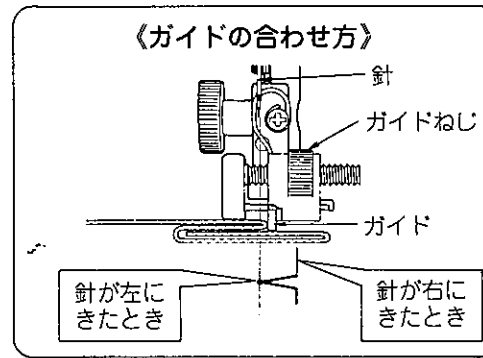
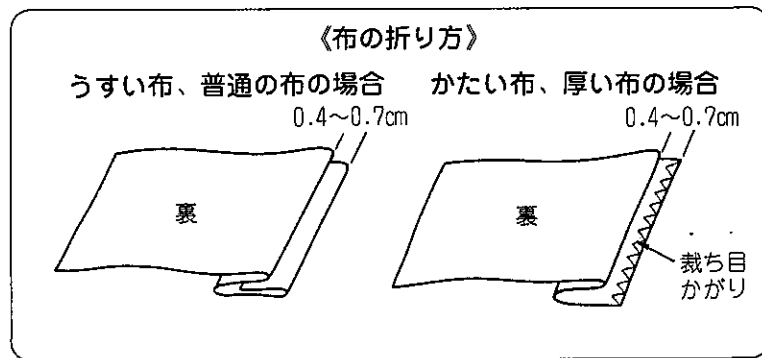
●くけ縫い(まつり縫い)



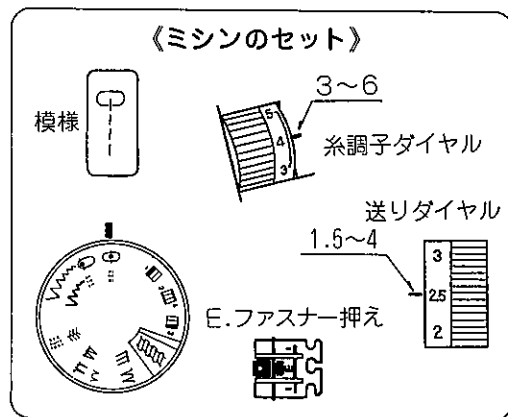
①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押え上げをさげます。



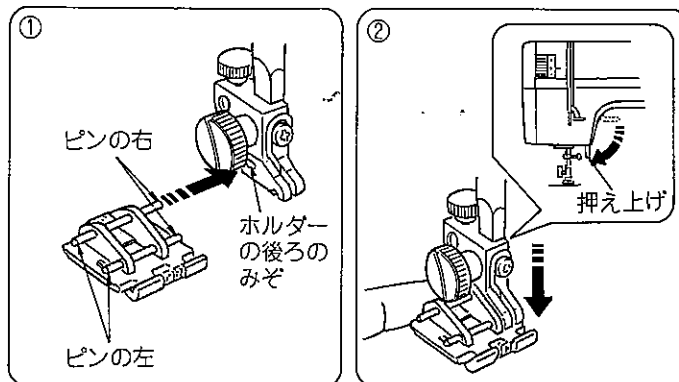
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。



●ファスナーつけ



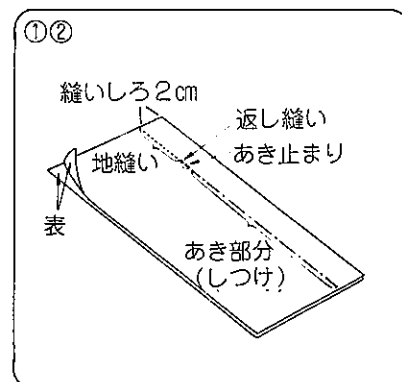
★ファスナー押えのつけ方



- ① 押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。
- ② 指で軽くささえながら、静かに押え上げをさげます。

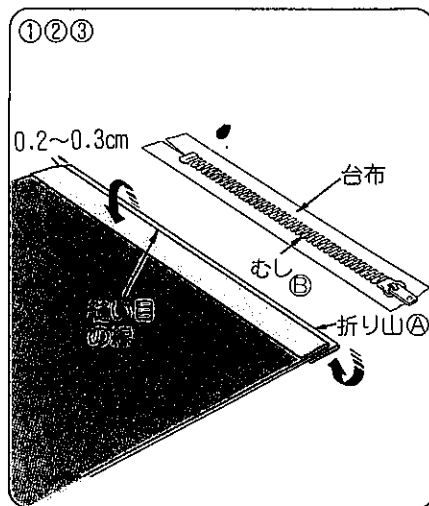
* むしの左側を縫うときはピンの右を、むしの右側を縫うときはピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。

★準備

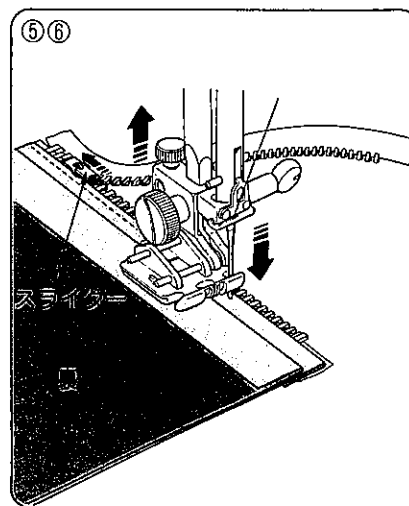
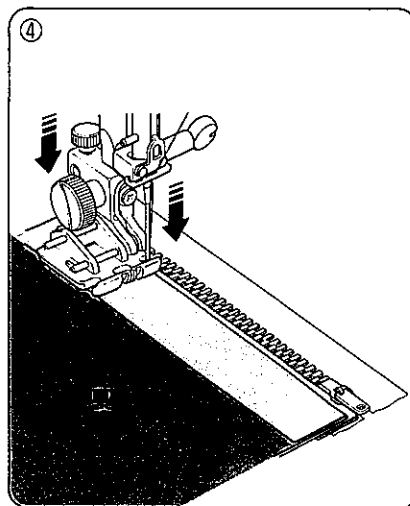


- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。
- ② あき部分は、しつけをします。

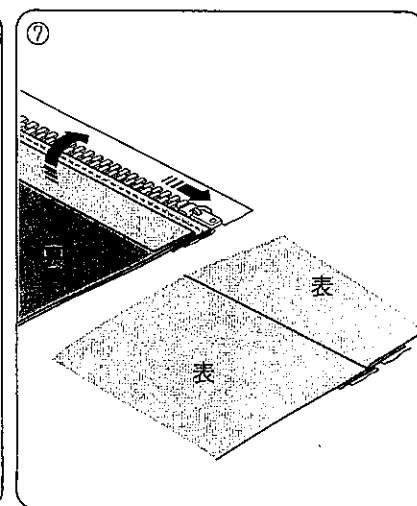
★縫い方

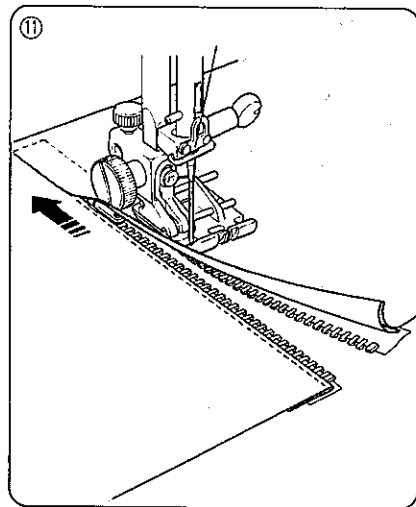
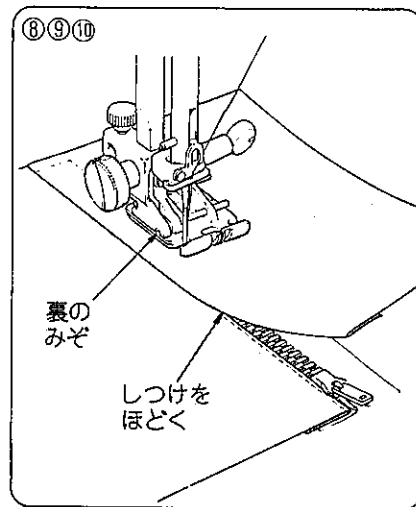


- ①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。
- ②下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返します。
- ③ファスナーのむし(B)を、折り山(A)にそわせて、布をファスナーの台布にのせます。
- ④押えのピンの右を押えホルダーに取り付けます。
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。



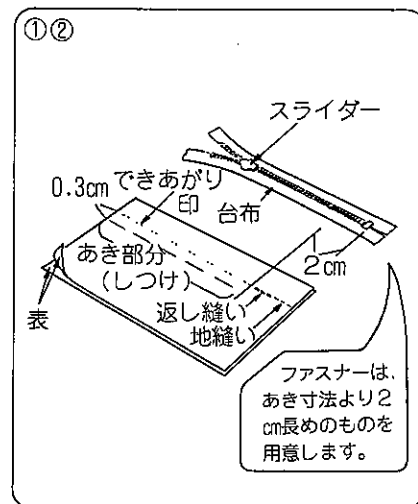
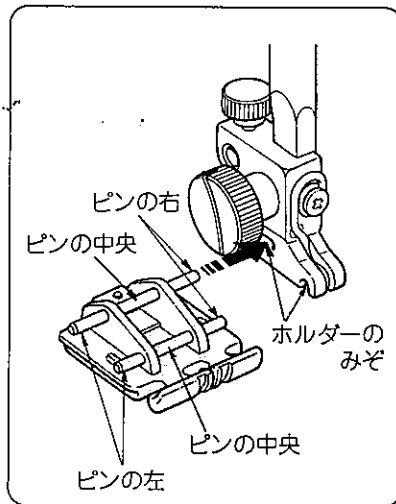
- ⑤押えがスライダにあたる手前で、ミシンを止めます。
- ⑥はずみ車をまわして針をさげ、押え上げをあげます。スライダを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。
- ⑦スライダをとじ、布をひらいて、表にします。





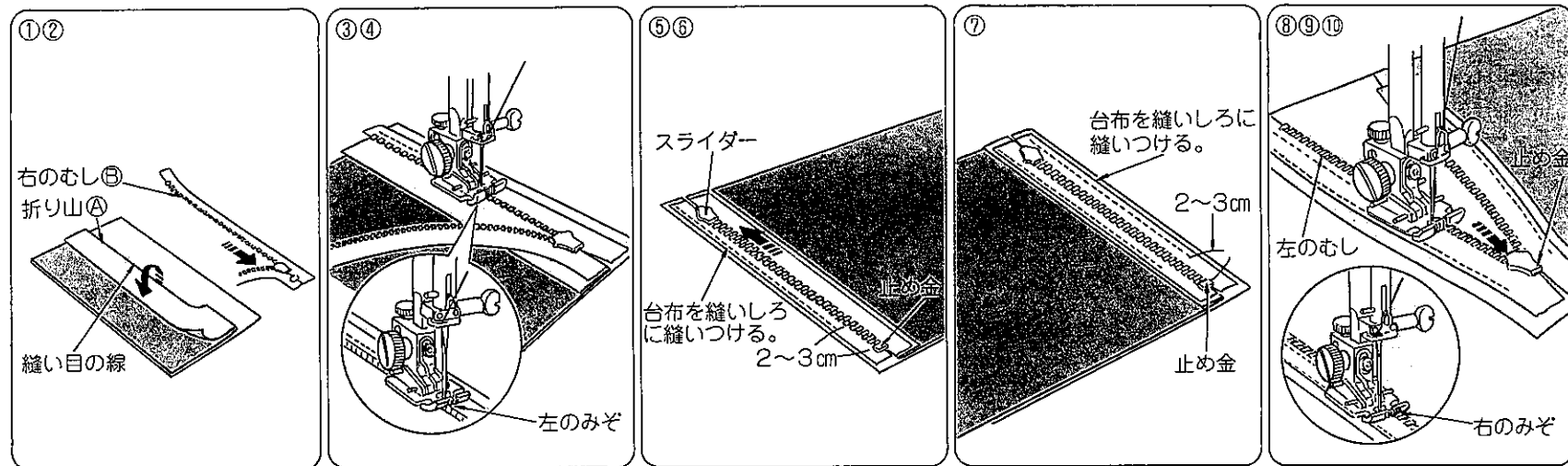
- ⑧ 押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
- ⑨ 押えがスライダーにあたる手前でミシンを止めます。
- ⑩ 針を布にさしたままで、押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。
- ⑪ スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

★コンシールファスナーつけ ★準備



- * ミシンのセットは24ページをごらんください。
- * むしの左側と右側を縫うときはピンの中央を、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右を、台布の右側を縫うときはピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。
- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。
- ② あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、0.3cm内側にしつけをします。

★縫い方

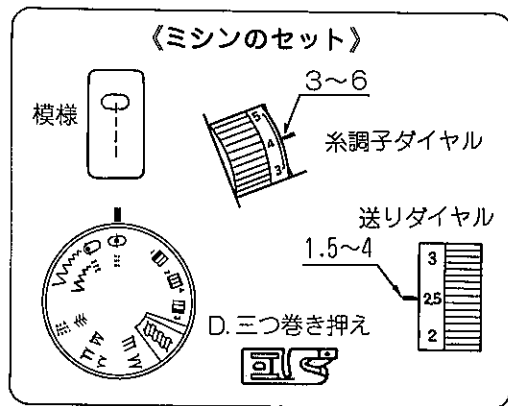


- ①上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。
- ②ファスナーをひらいて、右のむし③を、折り山④にあてておきます。
- ③押えのピンの中央を押えホルダーにとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。
- ④むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

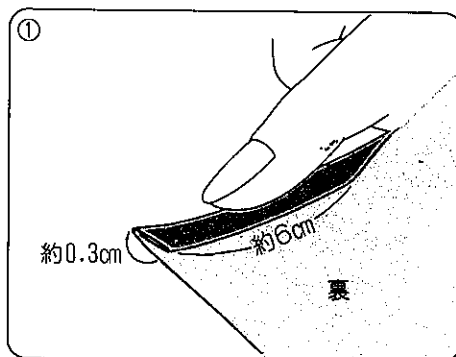
- ⑤押え上げをあげて、スライダーをとじます。
- ⑥押えのピンの右を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、左側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。
- ⑦押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、スライダーの下の身頃を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。

- ⑧押えのピンの中央を押えホルダーにつけかえ、しつけをほどきます。スライダーの下の身頃を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいひらきます。
- ⑨左のむしをおこして押えの右のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように押えをやや左によせて押え上げをさげます。
- ⑩むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

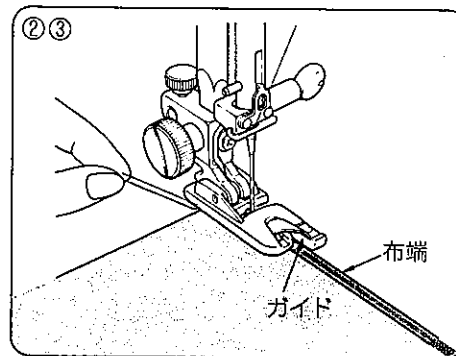
●三つ巻き縫い



*折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと縫いやすくなります。

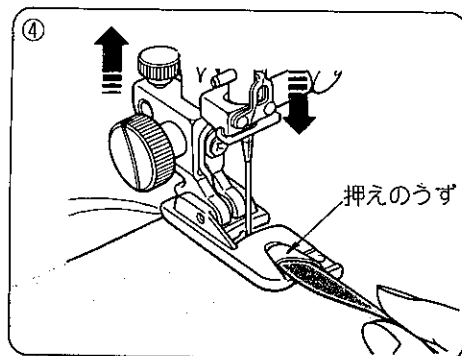


①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りまげます。

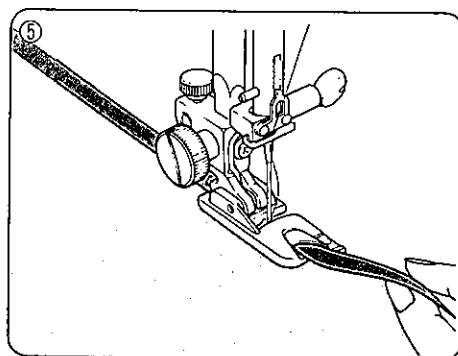


②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1~2cm縫います。

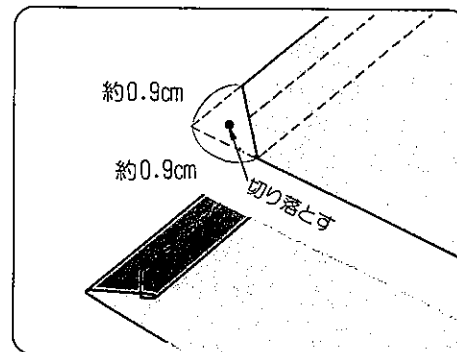


④はずみ車をまわして針をさし、押え上げをあげて、折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。



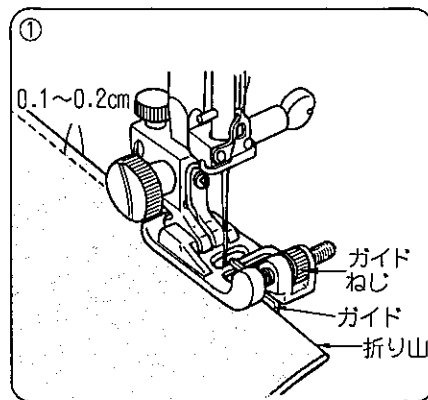
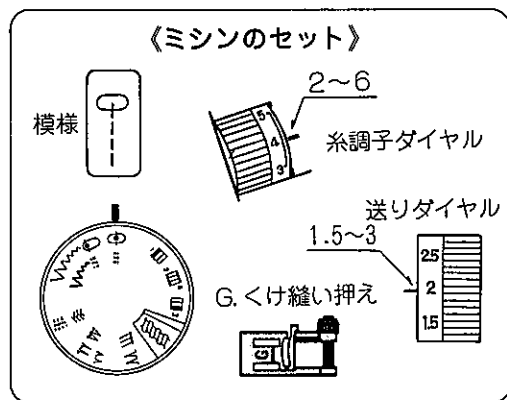
⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。

★布端のしまつ

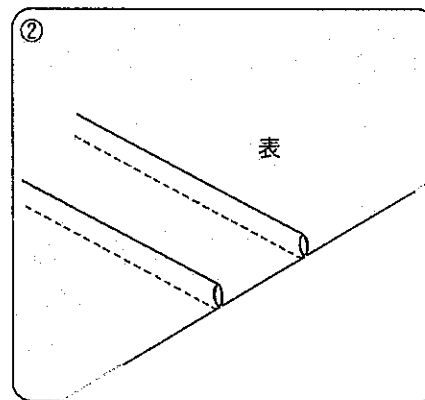


三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

●ピンタック

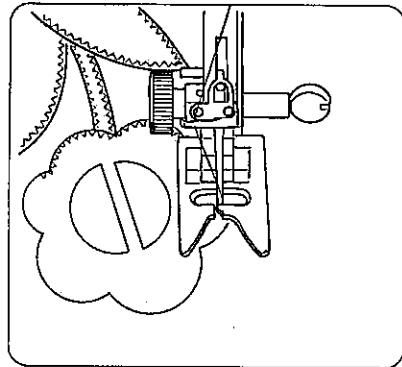
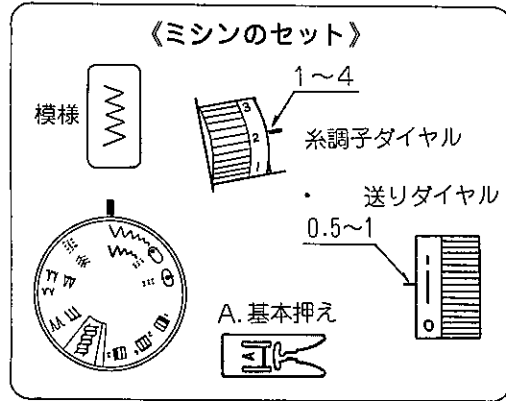


①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。
ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせて、縫います。



②折り山を片側に倒してアイロンで仕上げます。

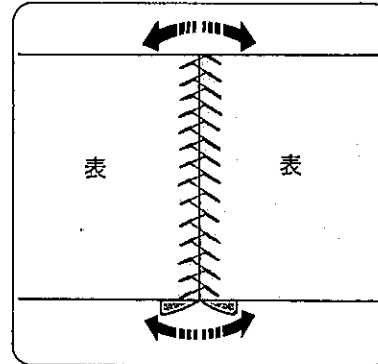
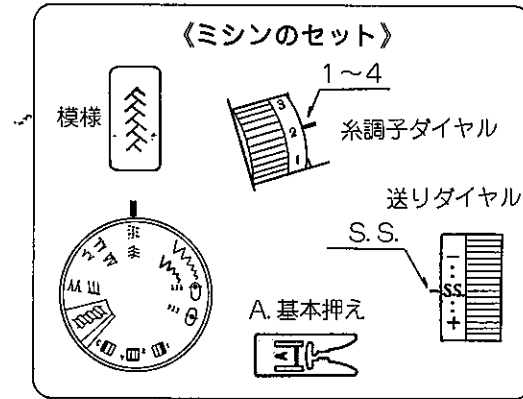
●アップリケ



アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

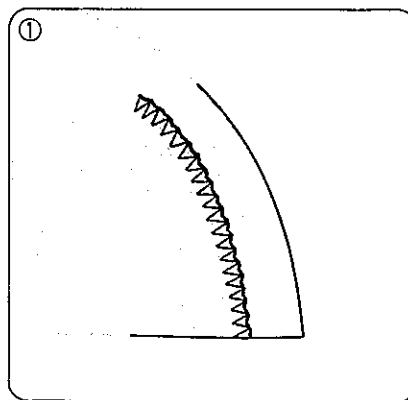
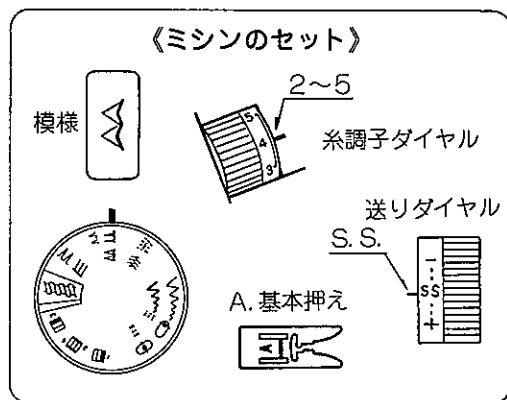
*急角度のところでは向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●パッチワーク

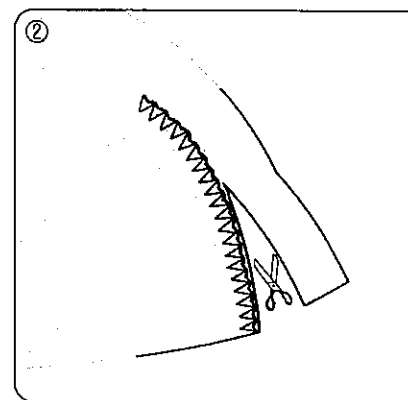


布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

●貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)

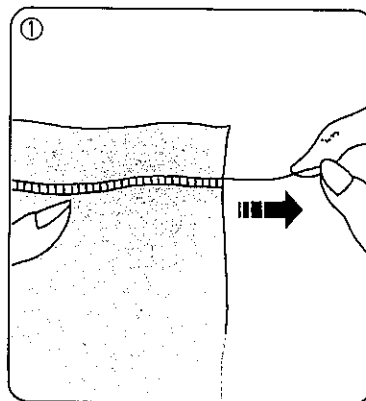
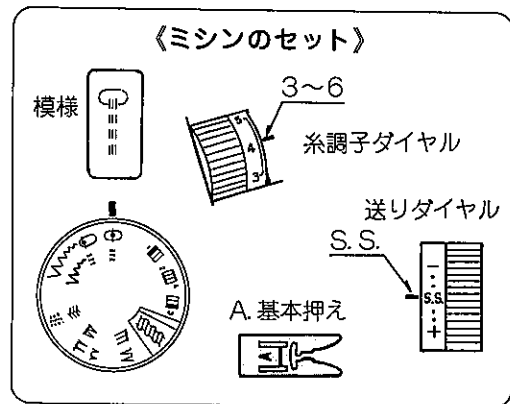


① 布の表から、布端を1cmくらい残して縫います。

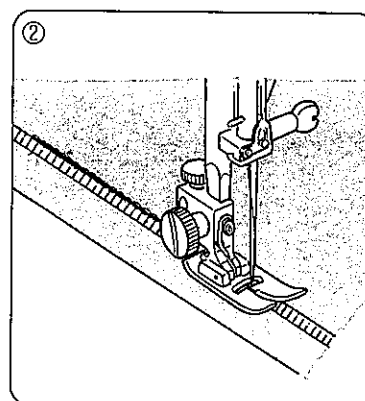


② 糸を切らないように、布端を切り落とします。

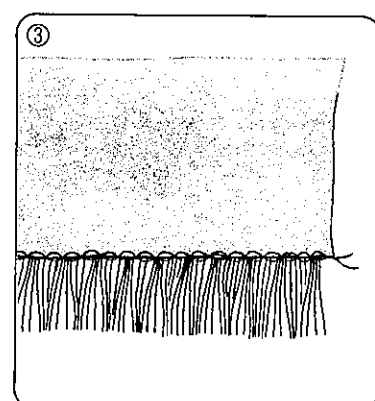
●フリンジ縫い



①フリンジの束になる部分の織り糸を、1~2本抜きとります。

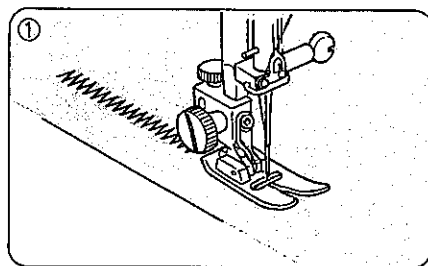
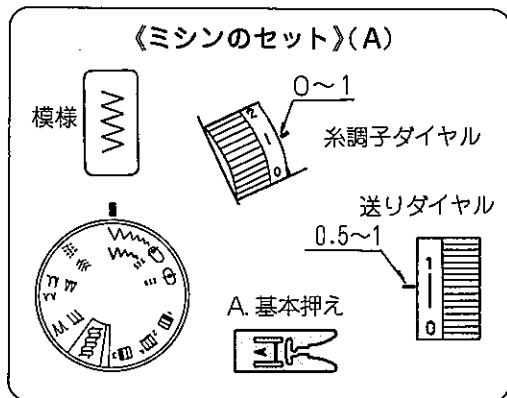


②織り糸を抜いた上を、縫います。



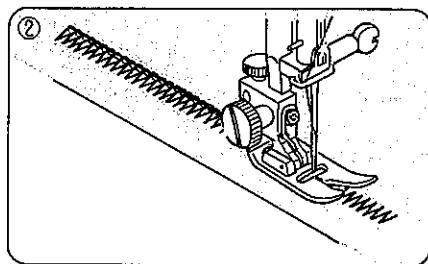
③フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。

●糸を使ったフリンジ

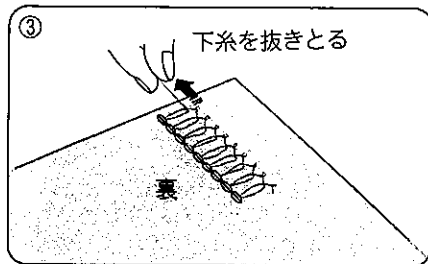
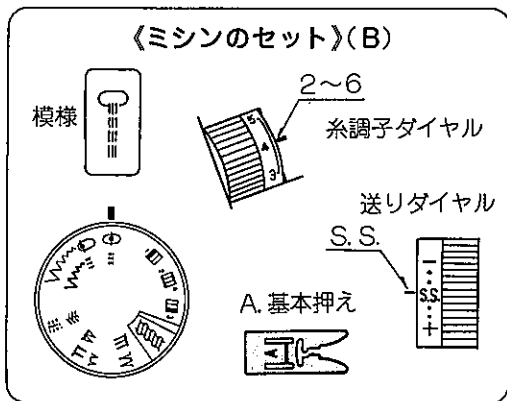


①(A)にセットして縫います。

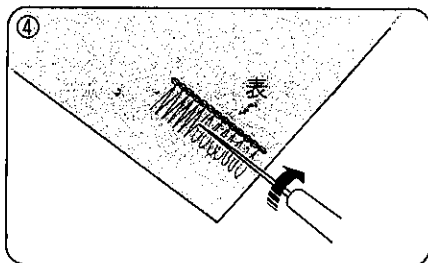
*上糸が布の裏にほぼ全部出るように上糸調子を弱くしてください。



②(B)にセットして、①の縫い目の右端を、三重縫いします。

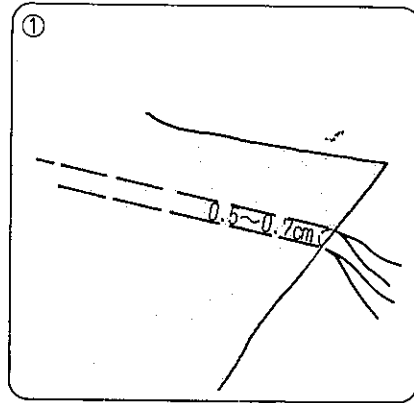
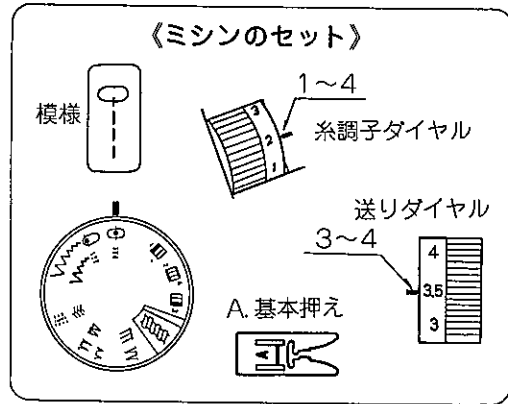


③①で縫った下糸を、引き抜きます。

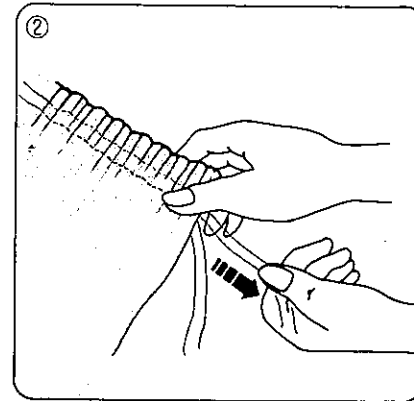


④太い針か、目ほどの背で、上糸を布の表に引きあげ、アイロンで仕上げます。

●ギャザーよせ

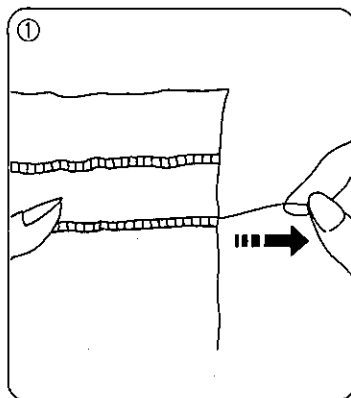
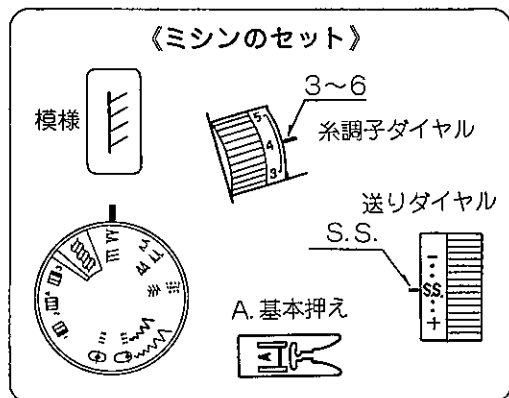


① 0.5~0.7cmの間かくで2本平行に縫います。

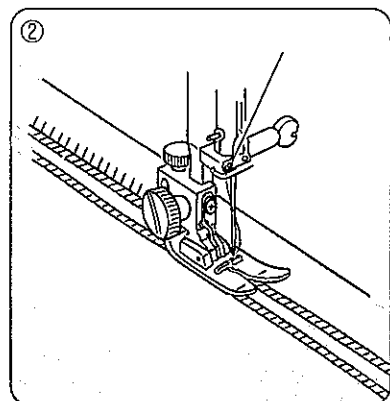


② 布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせます。

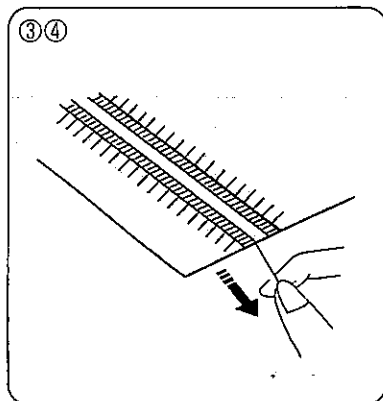
●ドロンワーク



①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1~2本抜きとります。



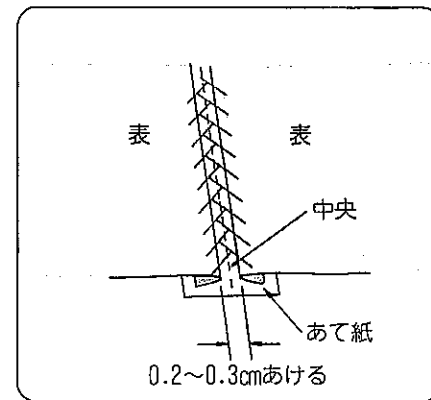
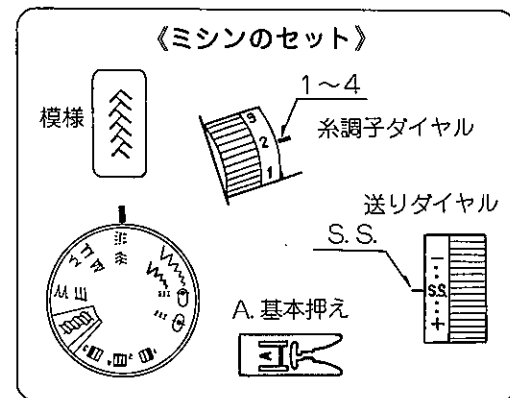
②織り糸を抜いた右側を縫います。



③布をまわしてもう一方を同じように縫います。

④ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとります。

●ファゴティング



①布端と布端の間かくを0.2~0.3cmあけて、裏にあて紙をします。

②布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。

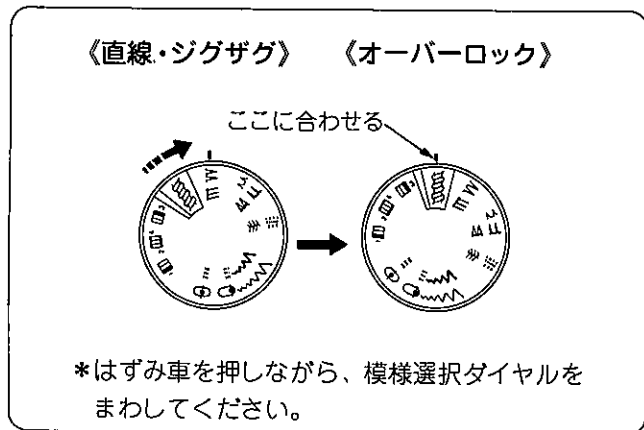
③あて紙をとります。

●準備

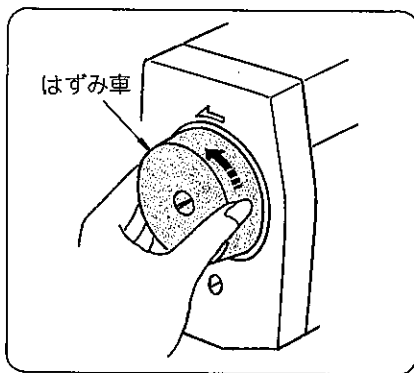
《オーバーロックへの切りかえ方》

はずみ車を押しながら、模様選択ダイヤルをまわして、切りかえます。

*照明ランプも自動的に、切りかわります。



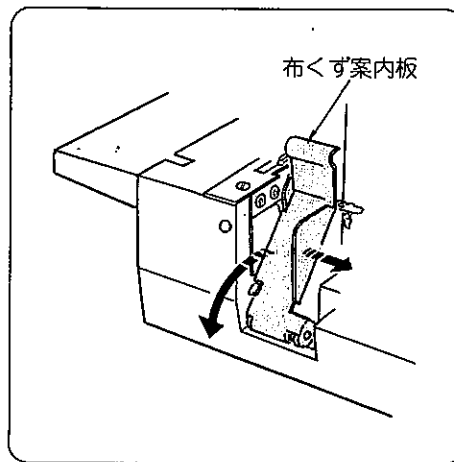
*電源のつなぎ方、速さの調節の仕方、ミシンの向きのかえ方は7～8ページを参照してください。



《はずみ車の回転方向》

オーバーロック縫いするとき、はずみ車は、図のように矢印方向にまわします。反対方向にまわすと、糸がからんで縫えなくなります。

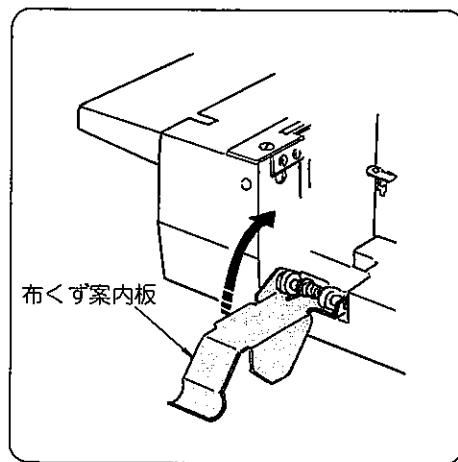
●布くず案内板のあけ方、しめ方



★あけ方

右いっぱいによせて、手前に引きます。

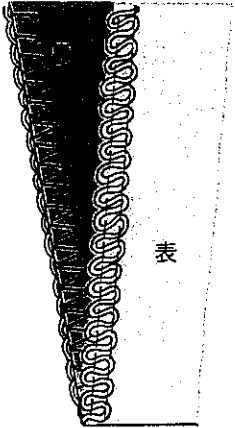
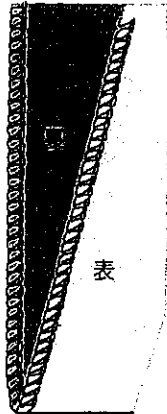
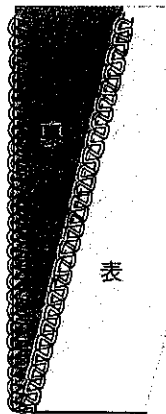

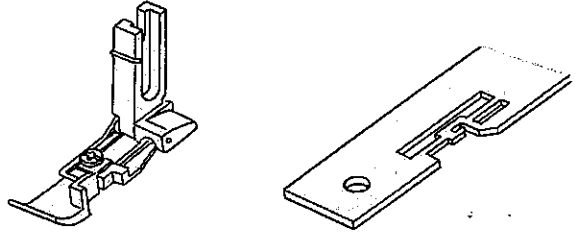
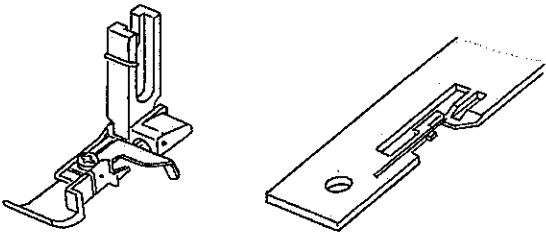
*裁縫するとき、布くず案内板は、必ずしめておいてください。
*布のふちをメスで切断しながら縫うので、布の端の切りくずが手前に出ます。



★しめ方

あげて軽く押しつけます。

●オーバーロック縫いの種類

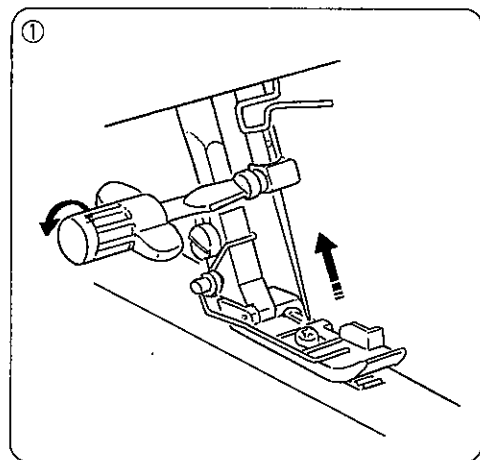
	ふちかがり縫い		巻き縫い	細ロック縫い	ピコ縫い
縫い目					
押え	普通縫い押え	普通縫い針板	巻き縫い押え	巻き縫い針板	
針板					
送り目盛	3		1	1	3
参照ページ	48～49ページ		50～52ページ		

●布に適した糸や針を選ぶ目安《ふちかがり縫い》

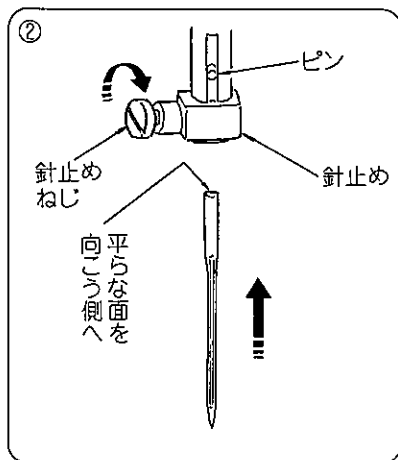
布の種類		糸	針
うすい布	オーガンジー、ジョーゼット、 ローン、クレープデシン、 洋服裏地	綿糸 80番～100番 絹糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	11番
普通の布	木綿地、トリコット、リンネル サテン、一般服地	綿糸 60番～100番 絹糸 50番～100番 化繊糸 60番～100番	11番～14番
厚い布	ツイード、コート地、デニム、 ドスキン、厚手服地	綿糸 40番～60番 絹糸 40番～60番 化繊糸 40番～60番	14番～16番
ニット	メリヤス、編地	綿糸 60番～80番 化繊糸 60番～90番	11番～14番

*巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫いのはきは、51ページを参照してください。

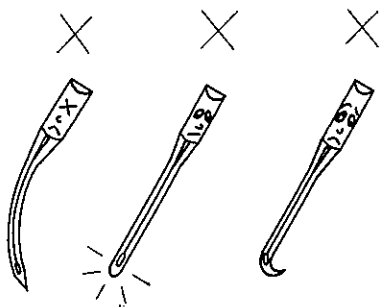
●針のとりかえ方



①針をあげ、針止めねじをゆるめて、針をはずします。

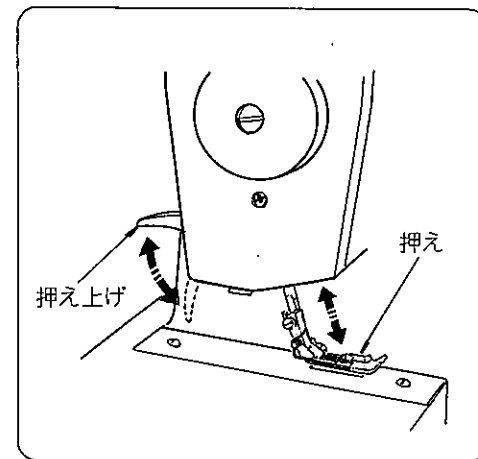


②針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいピンにあたるまで針止めにさしこみ、針止めねじをかたくしめます。



*全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

●押えのあげ方、さげ方

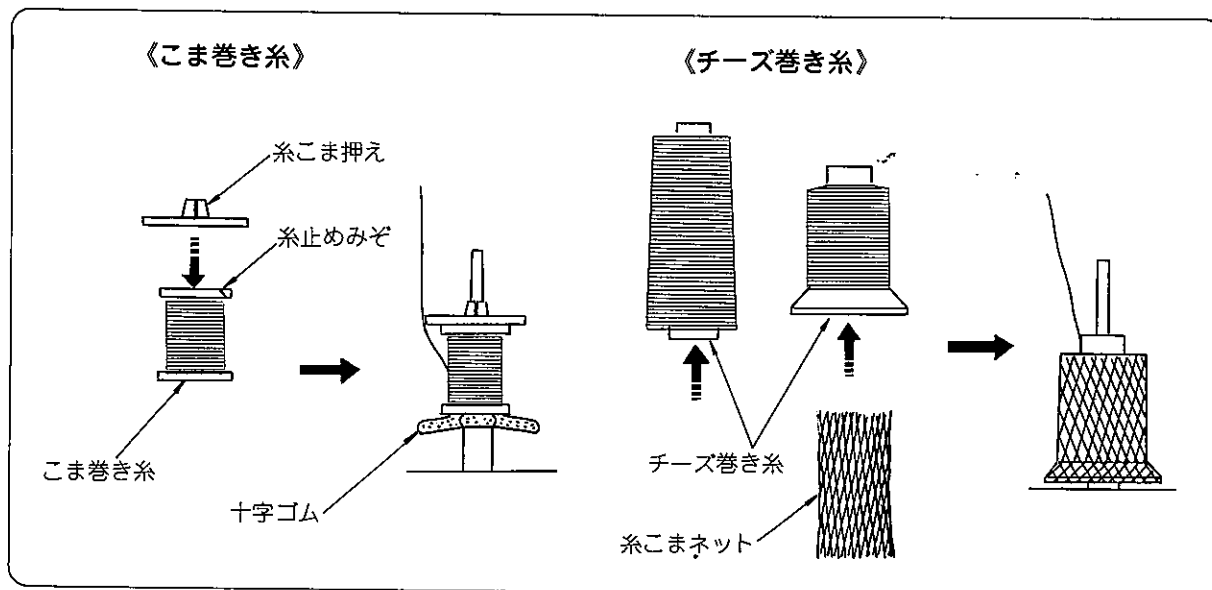


押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりします。

*一般に、糸を通しなおすときと、厚い布を縫うとき以外は、押えをさげたままにして使用します。

*直線・シグザグの場合と異なり、押えをあげても、糸調子は、ゆるみません。

●糸こま押え、糸こまネットのつけ方

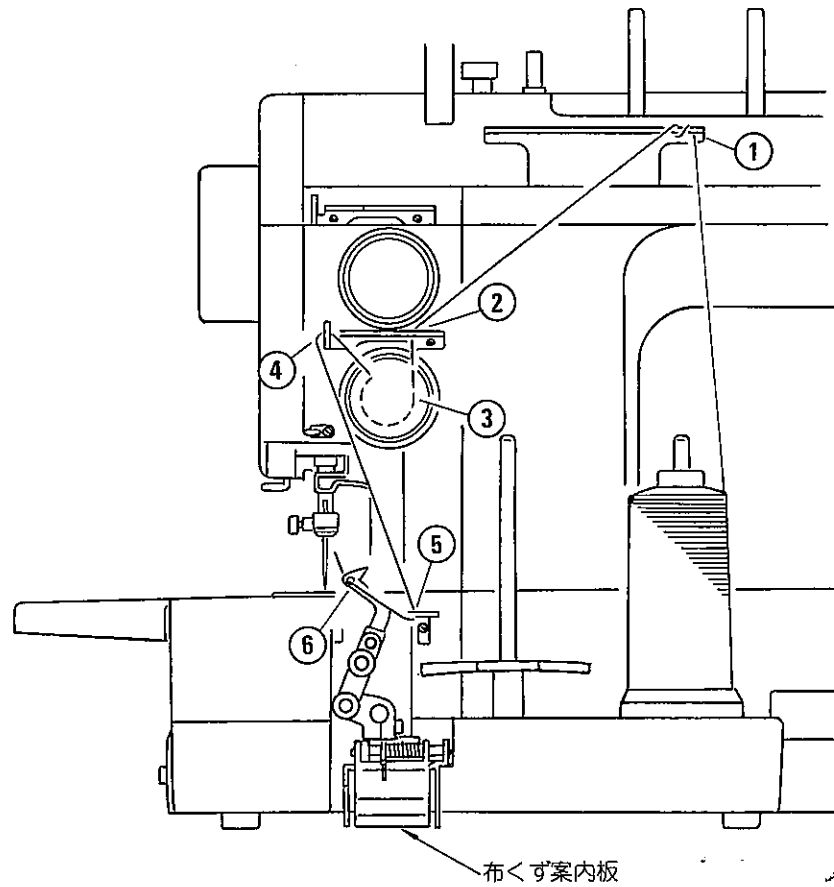


このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。

*こま巻き糸は、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にして、糸こま押えをはめてください。

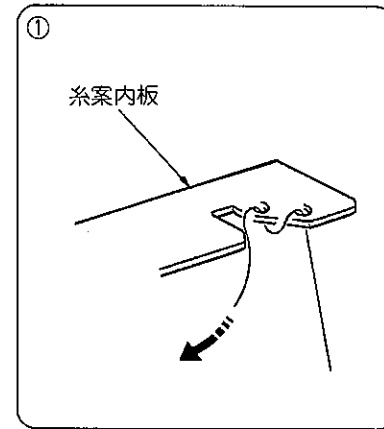
*化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からセットしてご使用ください。

●ルーパー系の通し方

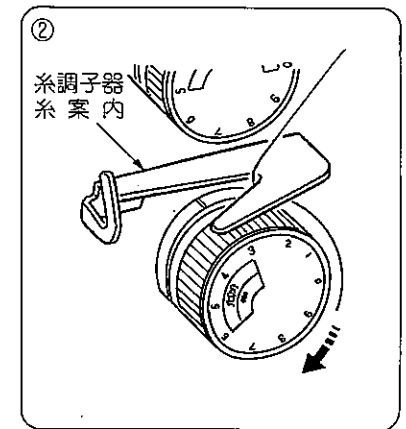


*糸道図は布くず案内板の裏にあります。

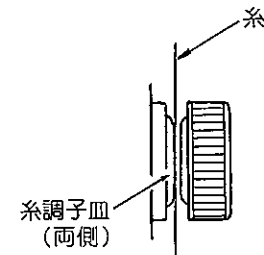
*糸はルーパー糸を先に掛けてから、針糸を掛ける方が容易です。



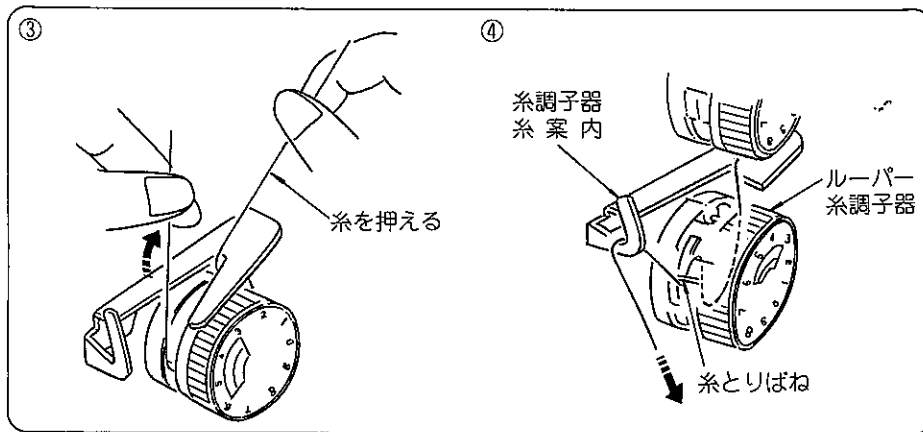
①糸こまから糸を引き出して、糸案内板の右側の2つの穴に通します。



②糸調子器糸案内に掛けます。

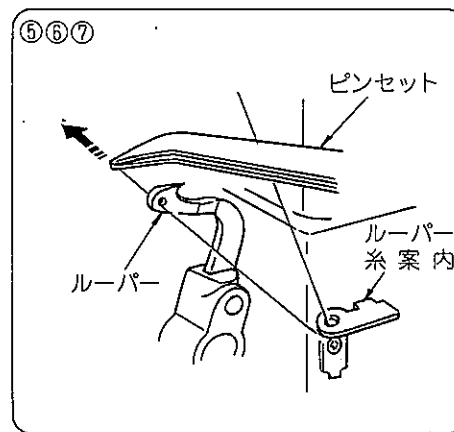


*糸は必ず糸調子皿の間に入れてください。



③ルーパー糸調子器の糸調子皿の間に糸をまわし、右手で糸を押えて、左手で糸先端を引いて糸取りばねに掛けます。

④糸調子器糸案内に掛けます。

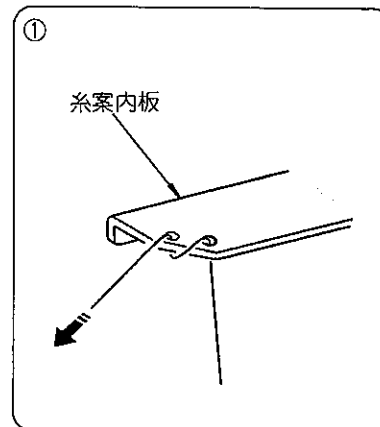
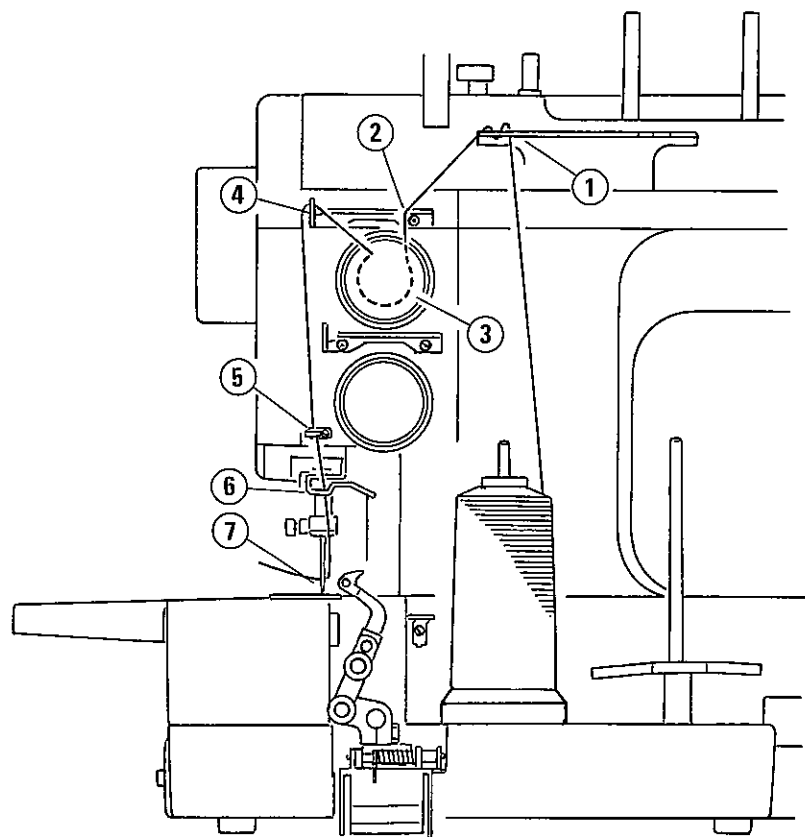


⑤布くず案内板をあけて、ルーパー糸案内に通します。

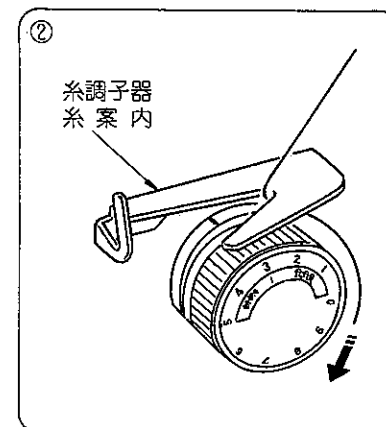
⑥はずみ車をまわし、ルーパーに糸を通しやすい位置にして糸を通し、ピンセットで、糸端を引出します。

⑦布くず案内板をしめ、糸端を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

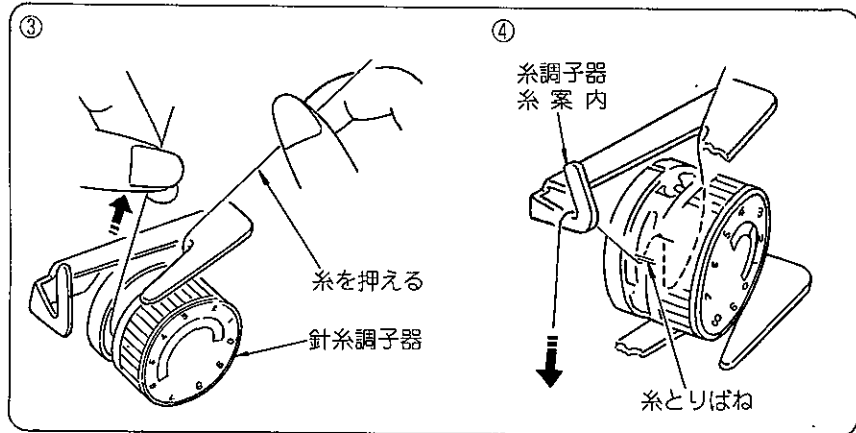
●針糸の通し方



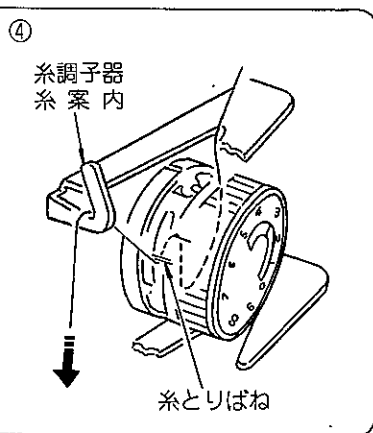
①糸こまから糸を引き出して、糸案内板の左側の2つの穴に通します。



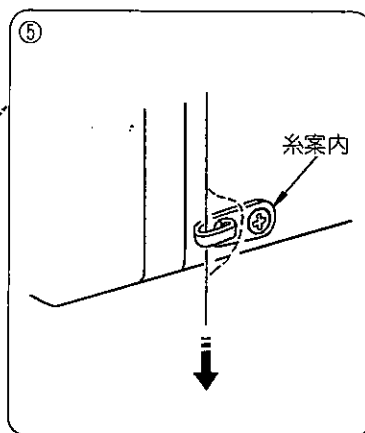
②糸調子器糸案内に掛けます。



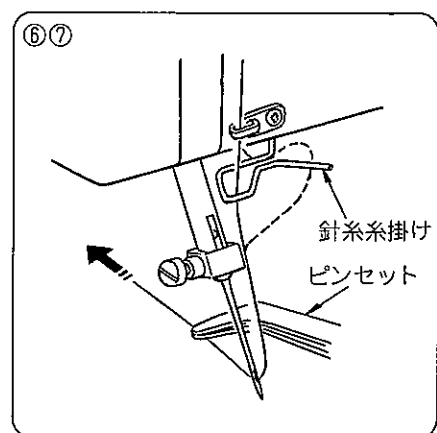
③針糸調子器の糸調子皿の間から糸をまわし、右手で糸を押え、左手で糸先端を引いて糸取りばねに掛けます。



④糸調子器糸案内に掛けます。

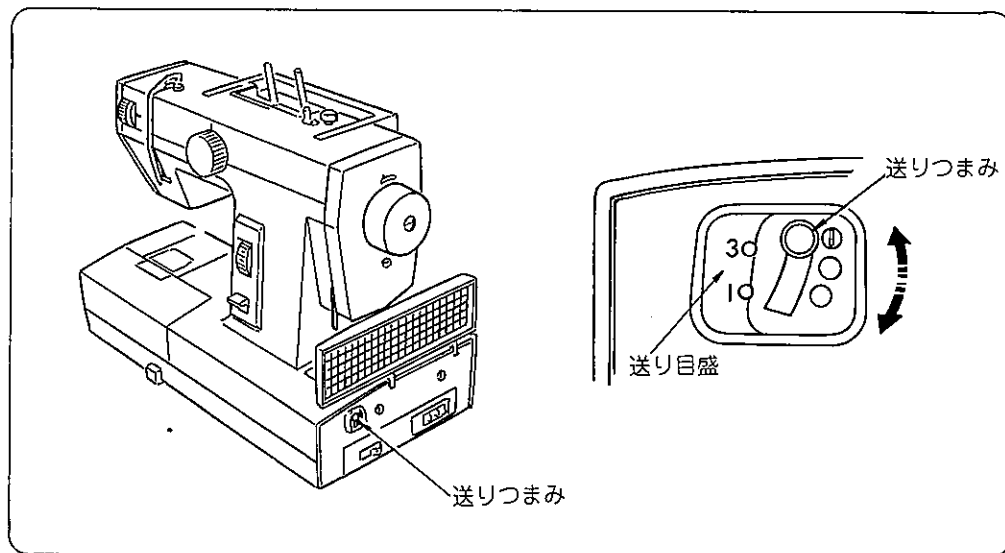


⑤糸案内に掛けます。



⑥針糸系掛けに掛けます。
⑦針に糸を通し、ピンセットで糸端を引き出します。糸端は、押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

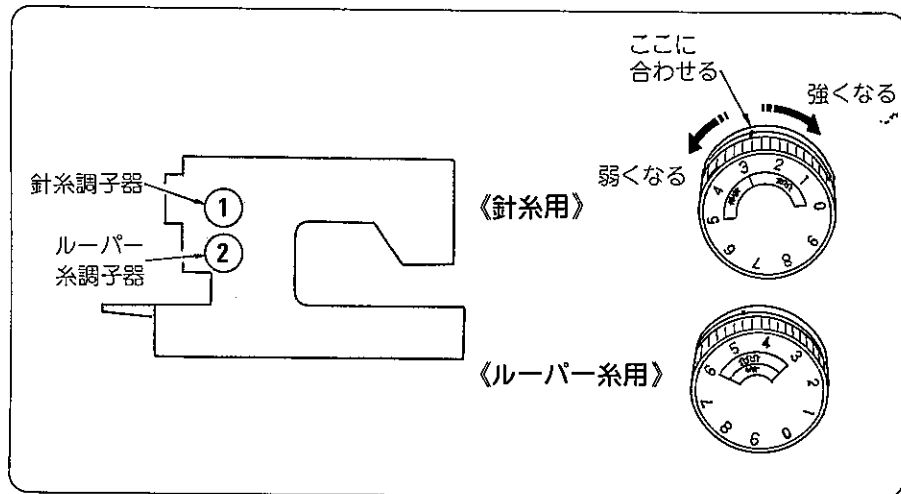
●送り目盛の選択の仕方



- 送り目盛は、オーバーロック縫いの種類（37ページ参照）に応じて選択します。
- 選択のし方は送りつまみを押しながら「1」または「3」に動かします。

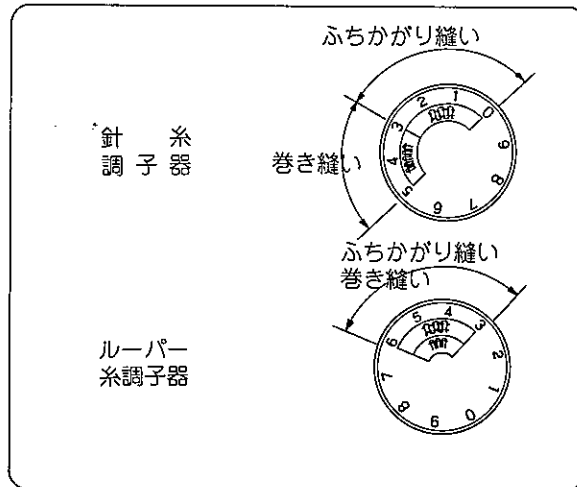
●糸調子の出し方



★糸調子器



- 糸調子は、針糸調子器とルーパー糸調子器で調節します。
- 糸調子は、布の種類や糸の太さなどによって異なりますから、布や糸に合った糸調子を出してください。

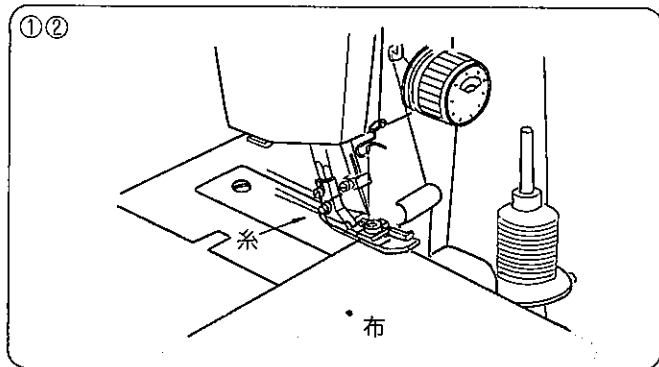
★糸調子器の目安



- 糸調子器のマークの範囲を目安に調節してください。
- ふちかがり縫いマーク…… 
- 巻き縫いマーク…… 

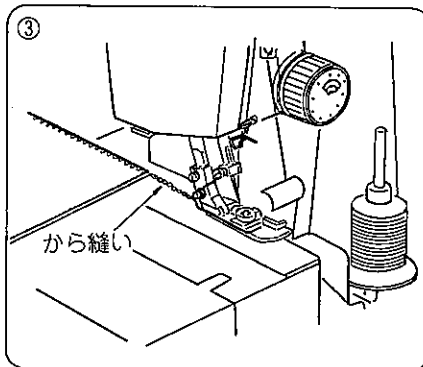
● 試し縫いをしましょう

★ 縫いはじめ

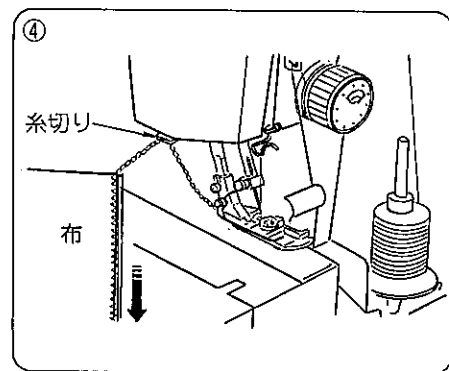


- ① 布をセットして押え上げをさげます。
- ② はずみ車を2～3回静かに回し、糸のからみぐあいを確かめ、ゆっくり縫い始めます。
布は自動的に送られますから、手は布地を縫いたいと思う方向に導くだけにしてください。

★ 縫いおわり

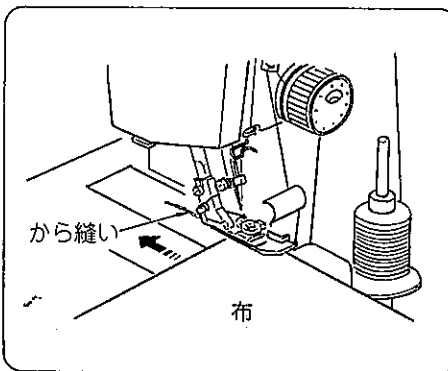


- ③ 布の端まで縫い終わったら、そのままミシンを低速で回し、から縫いをします。



- ④ 布の端より2～3cm残し、から縫いをした糸を糸切りかはさみで切ります。

★ つづけて縫うとき

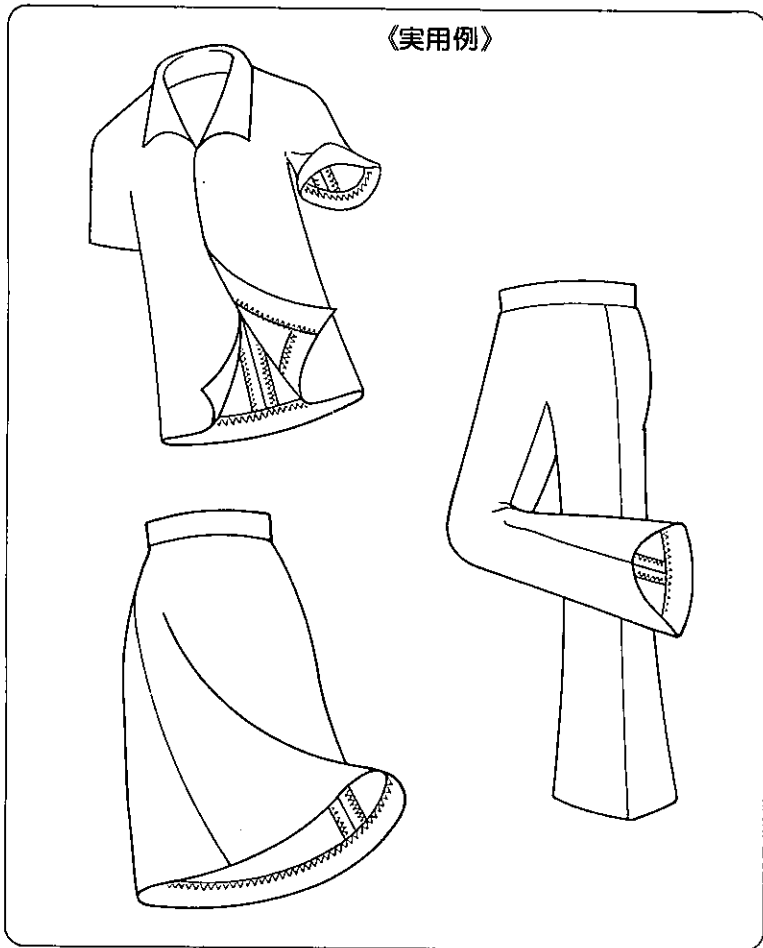


- 押え上げをあげずに、そのまま次の布地を縫います。

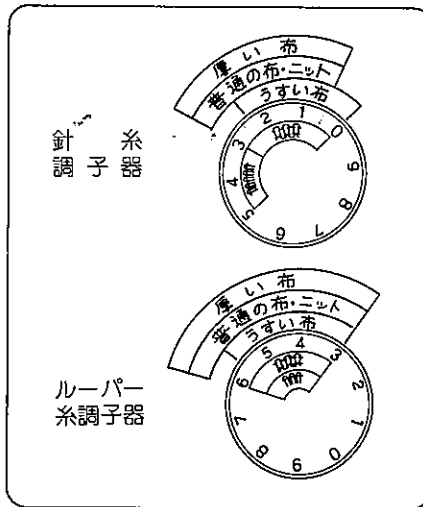
* 2本の糸調子のバランスが悪いと、から縫いがきれいにできないことがあります。このような場合には、から縫いされた糸を少し引きぎみにして縫うと、きれいにできます。

●ふちかがり縫い

《実用例》

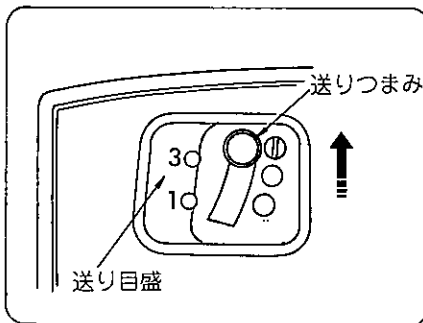


★糸調子器



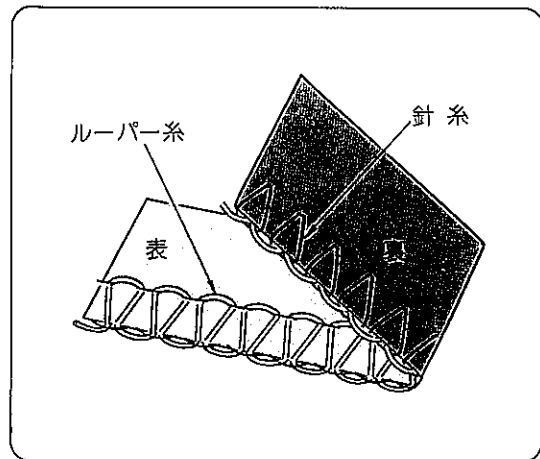
○糸調子は左図の範囲が目安です。

★送り目盛り



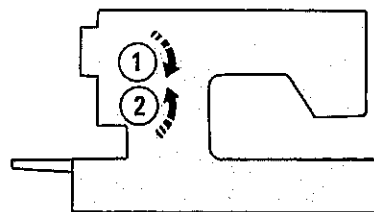
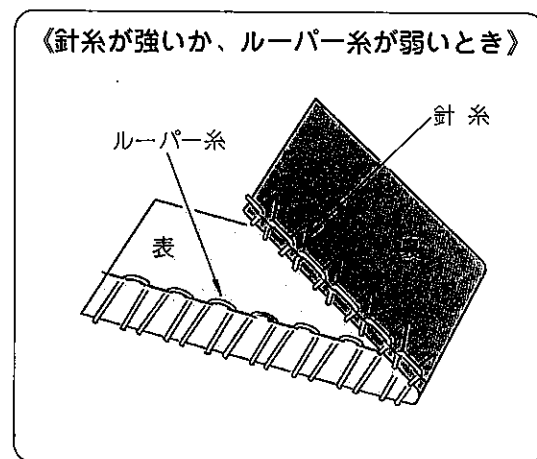
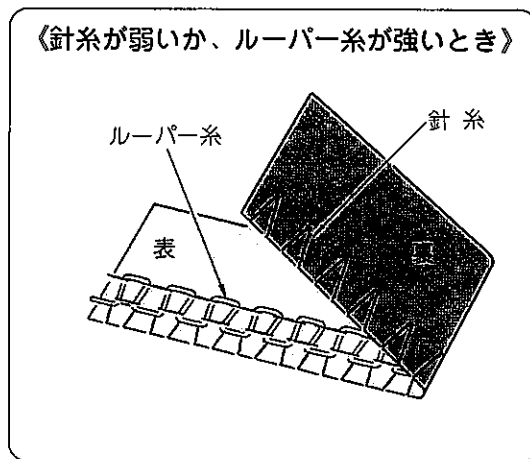
○送りつまみを目盛り3に合わせます。

★正しい糸調子

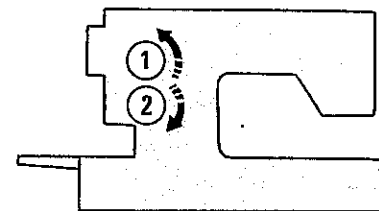


*針糸は布地の裏側に出ます。

★糸調子の出し方



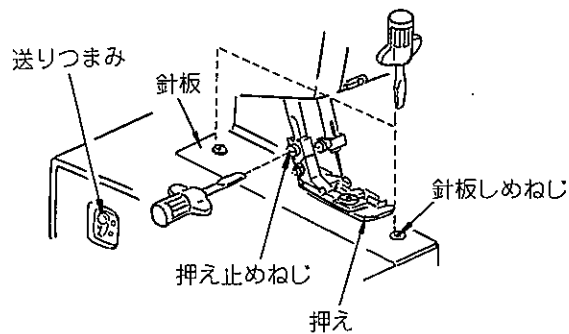
針糸調子器①を強くするか、
ルーパー糸調子器②を弱くし
てください。



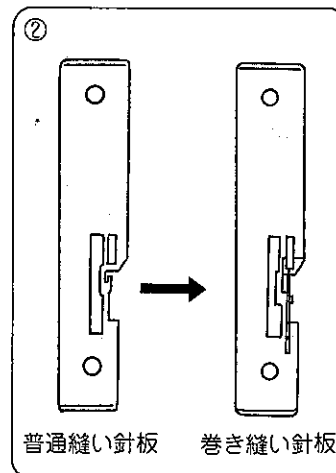
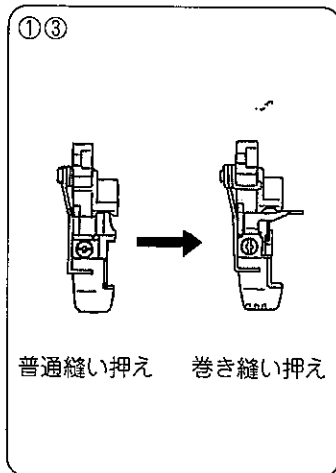
針糸調子器①を弱くするか、
ルーパー糸調子器②を強くし
てください。

●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い

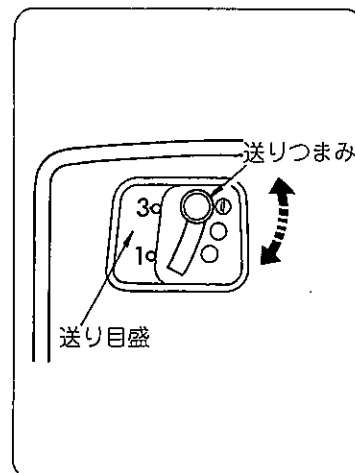
★準備



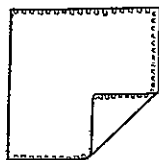
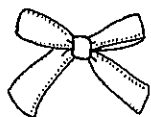
★押えの交換および針板の交換



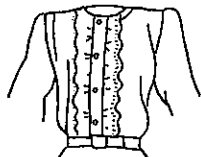
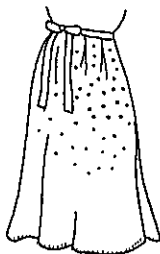
★送り目盛り



《実用例》



リボン・ハンカチのふちどり



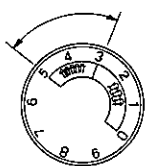
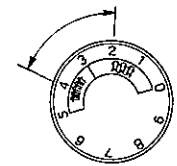
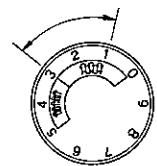
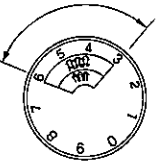
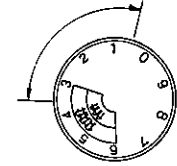
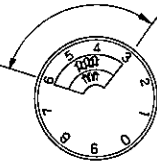
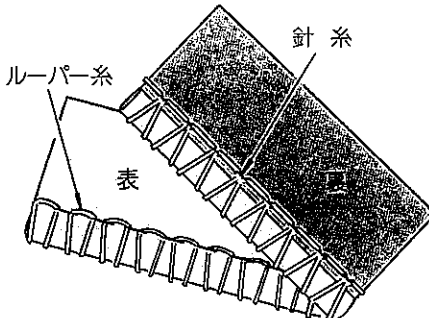
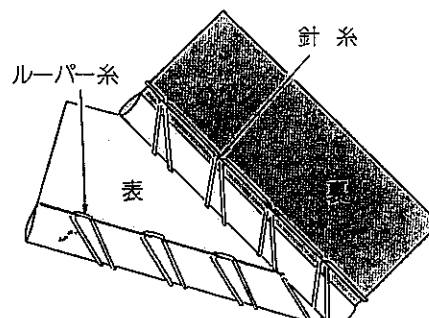
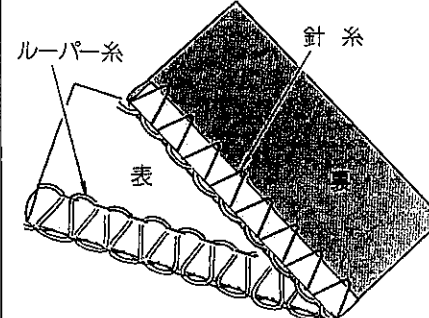
スカートのすそとフリルのふちかがり

- ①はずみ車をまわし、針を上にあげて、押え止めねじをゆるめ普通縫い押えをはずします。
- ③巻き縫い押えを、とりつけます。

- ②針板締めねじをゆるめて、普通縫い針板をはずし巻き縫い針板にとりかえます。

送りつまみを押しながら目盛をセットします。

★布と糸の種類と糸調子

布	巻き縫い		ピコ縫い		細ロック縫い		
	糸	糸調子器	糸	糸調子器	糸	糸調子器	
うすい布 オーガンジー、 クレープデシン ローン ジョーゼット	針糸	化繊糸 #80～#100 絹糸 #50～#100 	化繊糸 #80～#100 絹糸 #50～#100 	化繊糸 #80～#100 絹糸 #50～#100 			
	ルーバー糸	ウーリーナイロン糸 	ウーリーナイロン糸 	ウーリーナイロン糸 化繊糸 #80～#100 絹糸 #50～#100 			
	送り目盛	1		3		1	
	正しい糸調子(縫い目)						

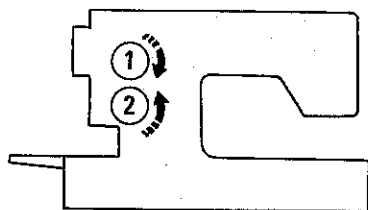
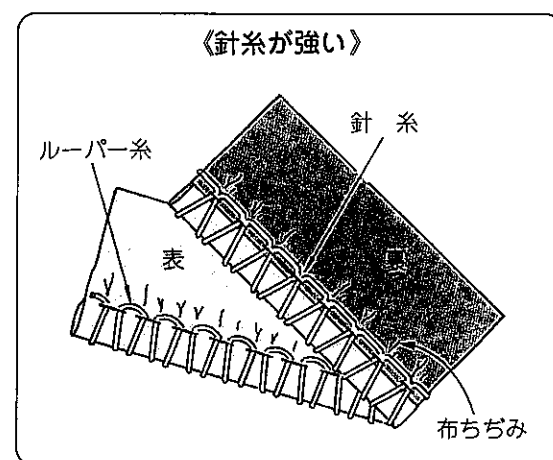
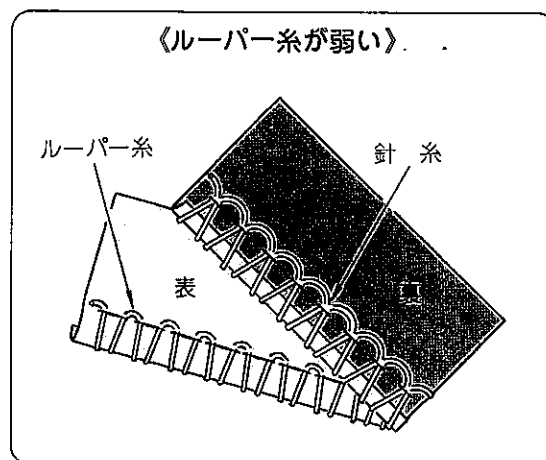
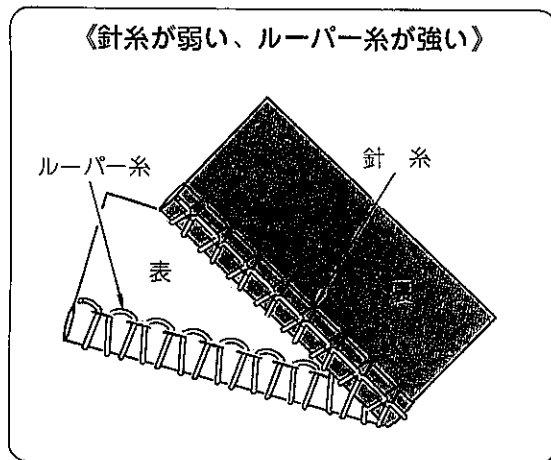
*針は11番針が最適です。

*より美しい縫い目に仕上げるには、針糸に巻きロックミシン糸をご使用ください。

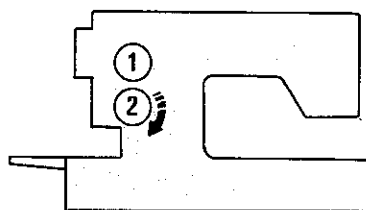
★糸調子の出し方

巻き縫い、ピコ縫い

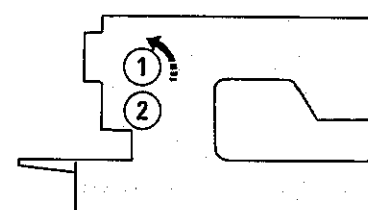
*細ロック縫いの糸調子の調節方法は、ふちかがり縫いと同じです。(49ページ参照)



針糸調子器①を強くするか、
ルーパー糸調子器②を弱くし
てください。



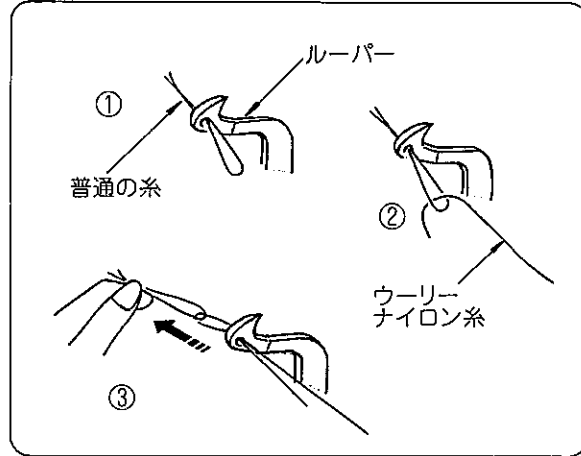
ルーパー糸調子器②を強くし
てください。



針糸調子器①を弱くしてくだ
さい。

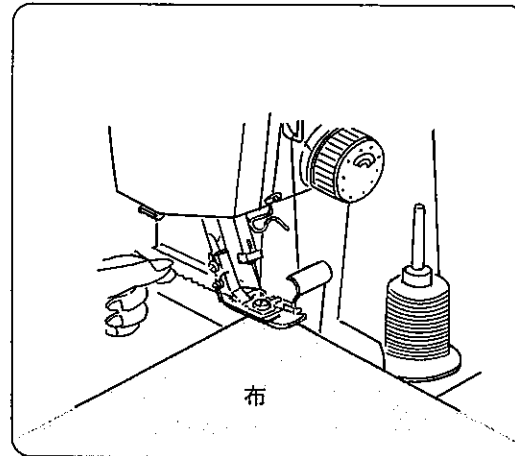
●オーバロックの上手な使い方

★ウーリーナイロン糸の通し方



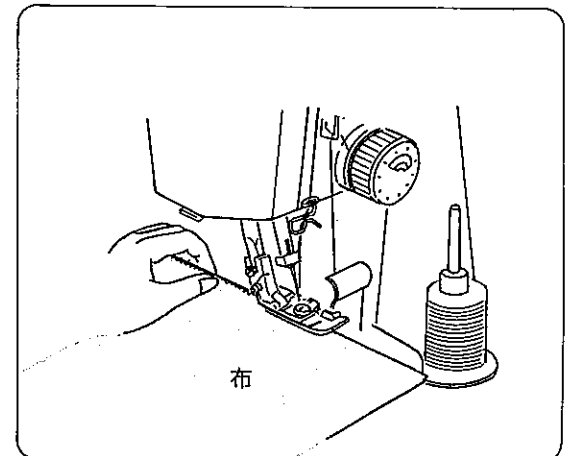
○ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸などは上図の方法で通します。

★巻き縫い



○縫いはじめは、から縫いされた糸を指で少し引きぎみにして縫うときれいに仕上がります。

★ピコ縫い



○布を軽く引きながら縫うと、きれいに仕上がります。

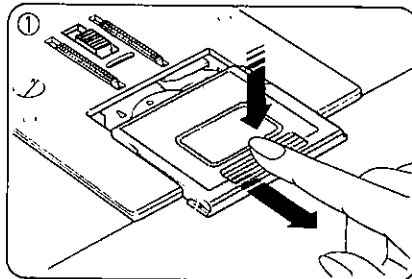
●ミシンの手入れと調整

使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

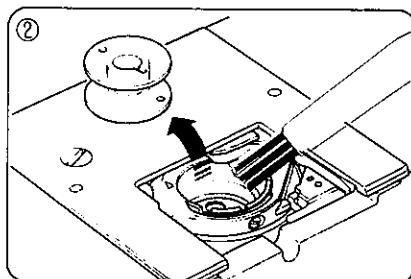
*手入れのときには、必ず電源スイッチをOFFにして、コンセントから電源プラグを抜いてください。

*手入れのときには、説明されている個所以外は分解しないでください。

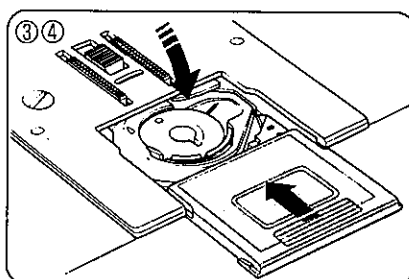
★かまの掃除



① すべり板の手前を押しながら引いて、すべり板をはずします。

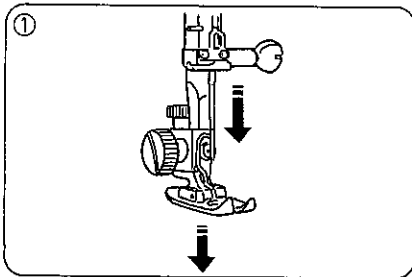


② ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。
* ブラシで掃除にくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

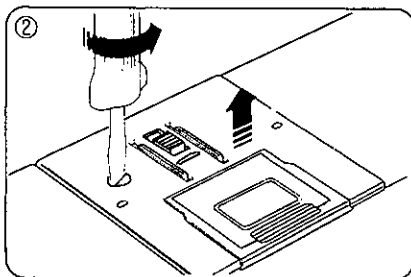


③ ボビンを入れます。
④ すべり板をのせ矢印の方向へ押して、つけます。

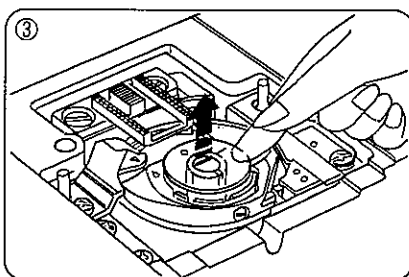
★かまの分解



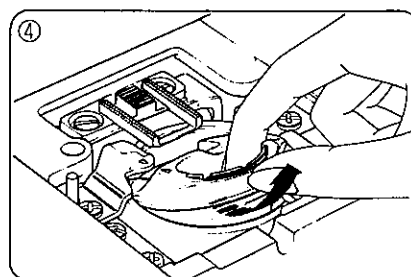
① 針と押えをはずします。



② 針板しめねじをはずし、針板をはずします。

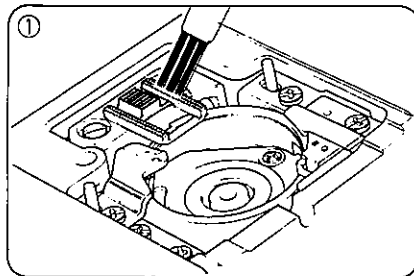


③ ボビンをはずします。

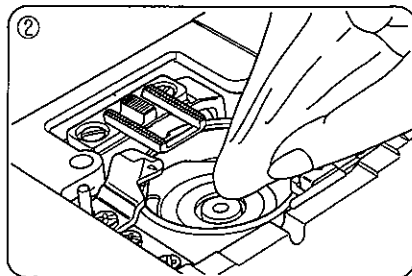


④ 内がまの手前を上へ引きながらはずします。

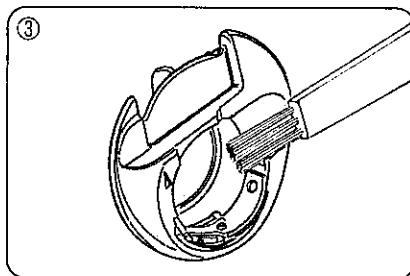
★かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

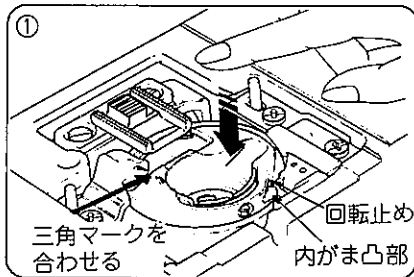


②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

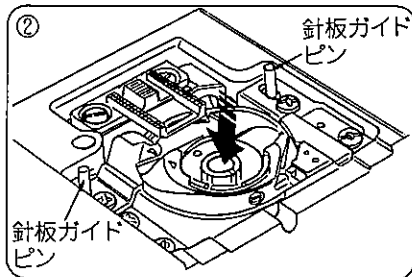


③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

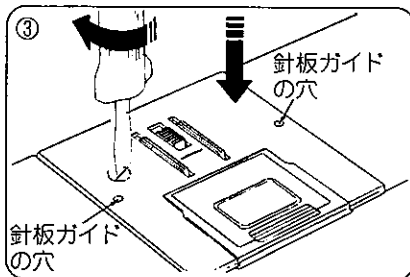
★かまの組立て



①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るように、内がまをとりつけます。



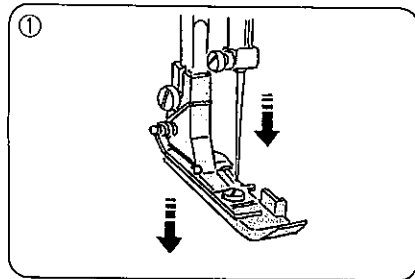
②ボピンを入れます。



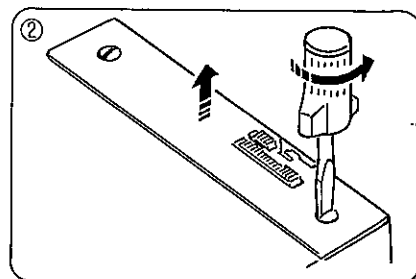
③2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。

*手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

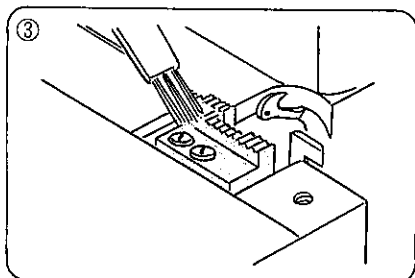
★送り歯の掃除《オーバーロック側》



①針と押えをはずします。

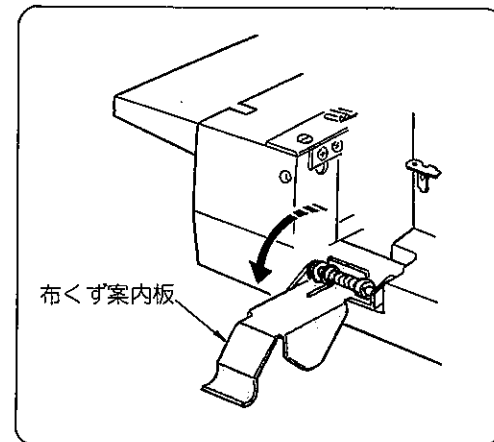


②針板しめねじ2か所をはずし、針板をはずします。

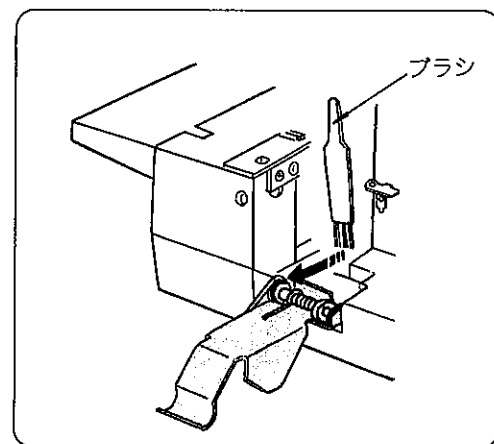


③送り歯のごみを、ブラシで手前に落とします。

★切りくずの掃除

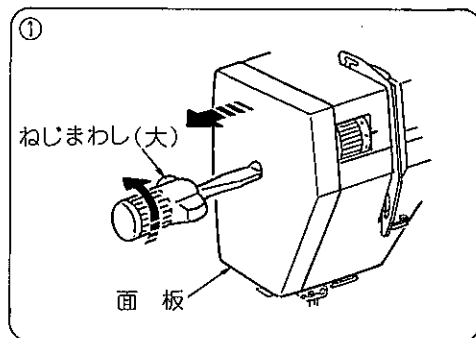


①布くず案内板をひらきます。

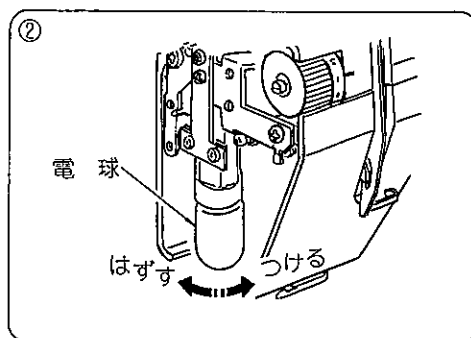


②切りくずを、ブラシで手前に、取り除きます。

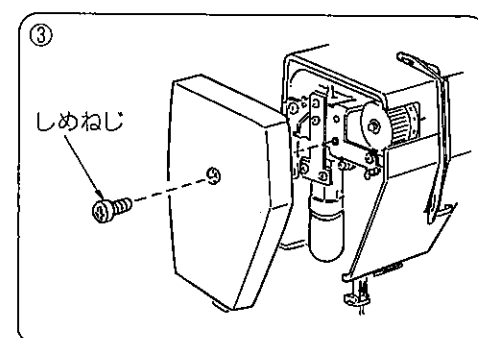
★電球のとりかえ方



①ねじまわし(大)でしめねじをゆるめ、
面板をはずします。

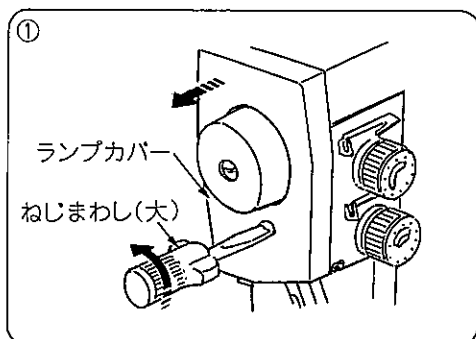


②電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。
*電球をとりかえるときは、電源プラグ
を抜いてください。

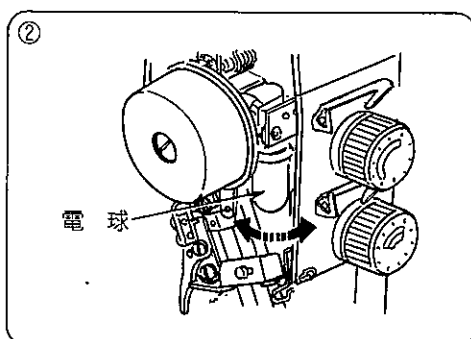


③電球のとりかえがおわったら、しめ
ねじをしめ面板をとりつけます。

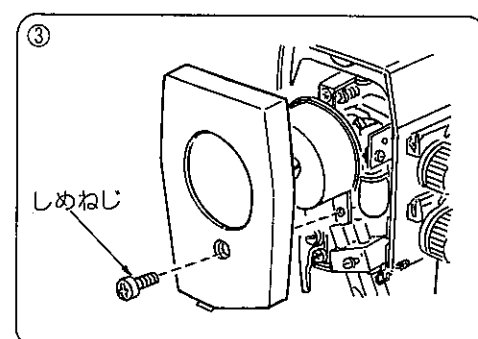
★電球のとりかえ方《オーバーロック側》



①ねじまわし(大)でしめねじをゆるめ、
ランプカバーをはずします。



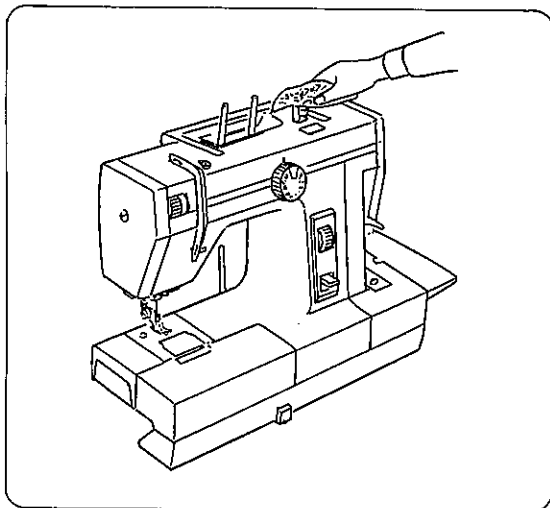
②電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。
*電球をとりかえるときは、電源プラグ
を抜いてください。



③電球のとりかえがおわったら、しめ
ねじをしめ、ランプカバーをとりつ
けます。

*安全のため、電球をはずした状態で、ミシンを使用しないでください。 *電球は100V、12W以外のものは使用しないでください。

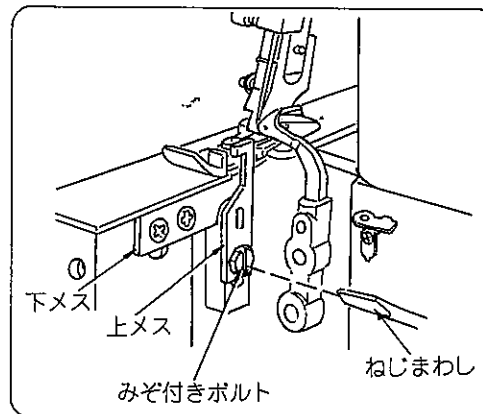
★外装の手入れ



ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとります。

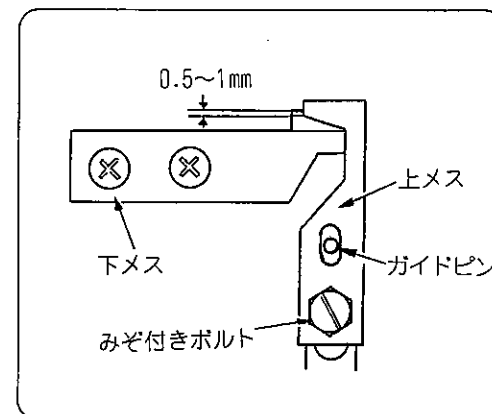
*シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。

★メスの交換



《取りはずし》

- ①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。
- ②布くず案内板をひらきます。
- ③みぞ付きボルトをゆるめ、上メスはずします。



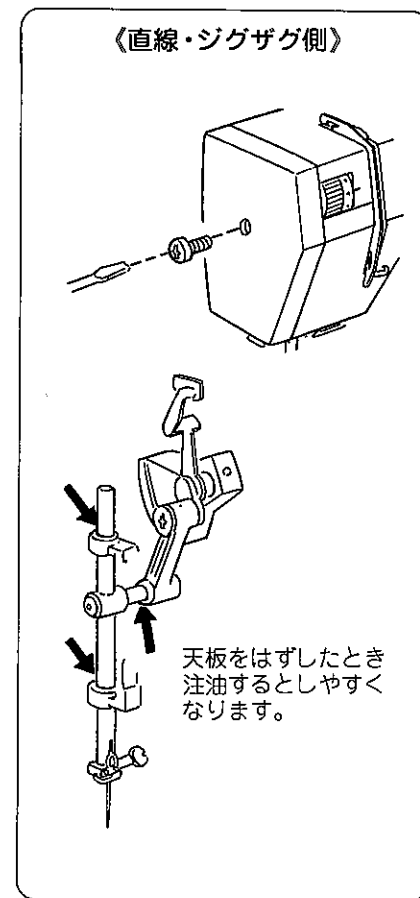
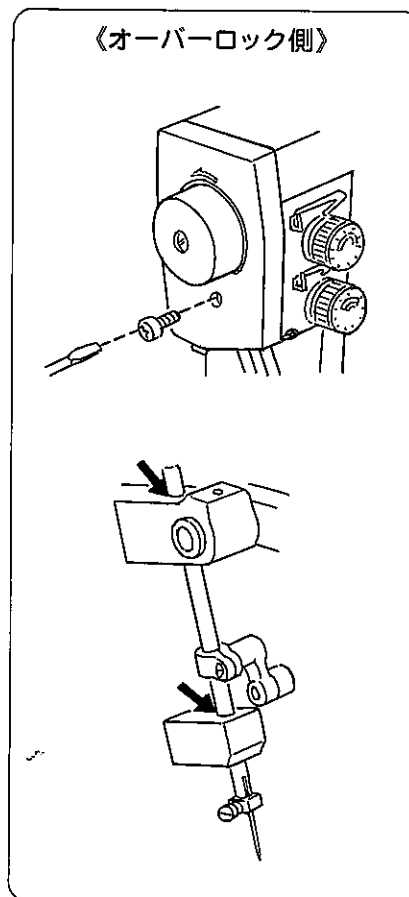
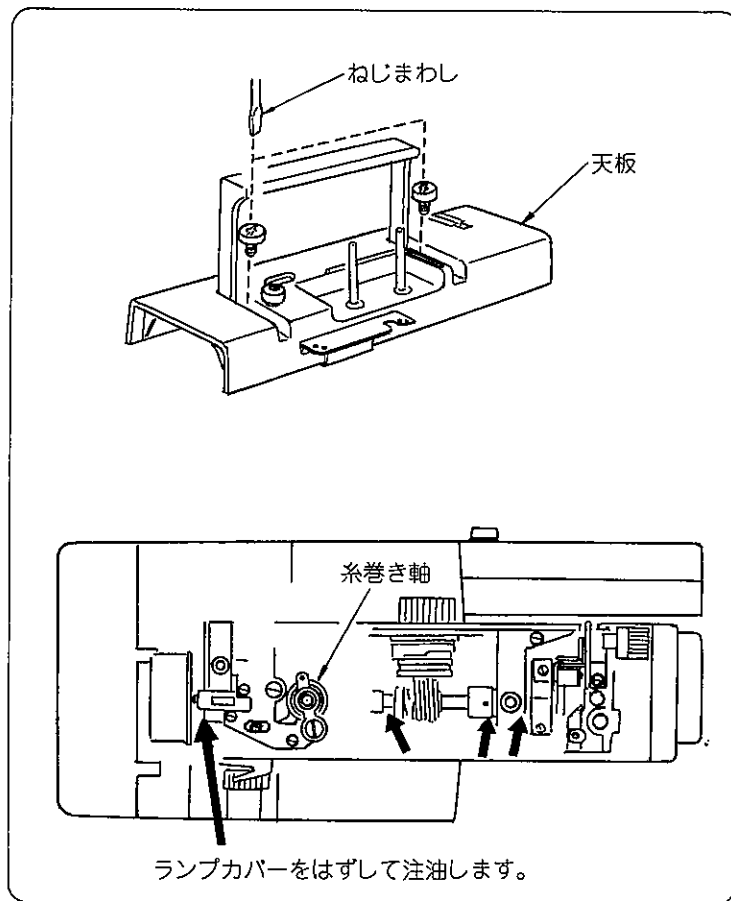
《取りつけ》

- ①上メスをガイドピンにはめ、みぞ付きボルトで軽くしめます。
- ②はずみ車を手でまわし、メスが最もさがったとき、上メスと下メスとのかみ合いが、0.5~1mmとなるように、上メスの位置を調節してみぞ付きボルトをしっかりしめます。
- ③布くず案内板をしめます。

*下メスは超合金製ですので通常は交換する必要がありません。

★注油のし方

矢印の個所に良質のミシン油を1～2滴注油し、注油後ミシンを1～2分ほど回転させて、よく油をしみこませます。一般家庭では1週間に1度、継続して使用するときは、10時間に1回くらい。また、しばらく使用しなかったときは、使用前に一通り注油してください。



★調子がよくないときの直し方

《直線・ジグザグ側》

調子がよくない状態	原因	直し方
上糸が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方がまちがっている。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる。 ⑦縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下においていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 14ページ参照 16ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 19ページ参照 10ページ参照 15ページ参照
下糸が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①下糸の通し方がまちがっている。 ②内がまの中に、ごみがたまっている。 ③ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<ul style="list-style-type: none"> 13ページ参照 54～55ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 ④上糸調子が特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥針が布にくらべて細すぎる。 ⑦針が布にささっているときに、模様選択ダイヤルを操作した。 	<ul style="list-style-type: none"> 11ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 16ページ参照 19ページ参照 10ページ参照 針をあげてから操作する。

調子がよくない状態	原因	直し方
縫い目がとぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針と糸が布に対して合っていない。 ④上糸の掛け方がまちがっている。 ⑤伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑥品質の悪い針を使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 11ページ参照 11ページ参照 10ページ参照 14ページ参照 10ページ参照 針を交換する。
縫い目がしわになる。	<ul style="list-style-type: none"> ①上糸調子が強すぎる。 ②上糸・下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③針が布にくらべて太すぎる。 ④布にくらべて、縫い目があらずぎる。 *特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> 16ページ参照 13～14ページ参照 10ページ参照 縫い目を細かくする。
縫い目に輪ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ①上糸調子が弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 16ページ参照 10ページ参照

調子がよくない状態	原因	直し方
布送りがうまくいかない。	<ul style="list-style-type: none"> ①送り歯に糸くずがたまっている。 ②縫い目が細かすぎる。 ③送り歯があがっていない。 	<p style="text-align: center;">55ページ参照 縫い目をあらくする。 9ページ参照</p>
ミシンがまわらない。	<ul style="list-style-type: none"> ①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に糸が巻きこまれている。 ③模様選択ダイヤルが《オーバーロック》になっている。 ④糸巻き軸がボビン押えの方に移動している。 	<p style="text-align: center;">7ページ参照 54～55ページ参照 8ページ参照 12ページ参照</p>
音が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ①かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯にごみがたまっている。 	<p style="text-align: center;">54～55ページ参照 55ページ参照</p>

《オーバーロック側》

調子がよくない状態	原因	直し方
布地を送らない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押えがあがっている。	56ページ参照 押えをおろす。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布地を無理に引っばった。	39ページ参照 39ページ参照 縫う時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	①糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②糸調子が強すぎる。 ③針のつけ方がまちがっている。 ④針がまがっていたり、針先がつぶれている。	41～44ページ参照 46、49、51、52ページ参照 39ページ参照 39ページ参照
縫い目かとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	39ページ参照 39ページ参照 41～44ページ参照
縫い目の調子が悪い。	①糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③針と糸が布に対して合っていない。	46、49、51、52ページ参照 41～44ページ参照 38ページ参照
縫い目がしわになる。	①糸調子が強すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	46、49、51、52ページ参照 41～44ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②模様選択ダイヤルが《直線・ジグザグ》になっている。 ③糸巻き軸がボビン押えの方に移動している。	7ページ参照 8ページ参照 12ページ参照

お客様相談コーナー

- ★ジャノメマシンでは全国500余の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
- ★お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。

- ★お電話いただければ調整係がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさらないでください。
- ★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎03(277)2315
〒104 東京都中央区京橋3-1-1

札幌支店 ☎011(261)5671
〒060 札幌市中央区南二条西2-11

仙台支店 ☎0222(21)3591
〒980 仙台市国分町3-5-32

新潟支店 ☎0252(41)8661
〒950 新潟市東大通り2-4-13

東京支店 ☎03(277)2488
〒104 東京都中央区京橋3-1-1

大宮支店 ☎0486(41)2975
〒330 大宮市下町1-6

千葉支店 ☎0472(22)5121
〒280 千葉市富士見町1-14-11

横浜支店 ☎045(251)8523
〒231 横浜市中区長者町5-71

名古屋支店 ☎052(733)5116
〒464 名古屋市千種区内山3-33-14

大阪支店 ☎06(213)1635
〒542 大阪市南区三津寺町20

尼崎支店 ☎06(481)2193
〒660 尼崎市東難波5-7-20

広島支店 ☎082(228)5181
〒730 広島市中区熾町15-9

高松支店 ☎0878(31)1721
〒760 高松市瓦町2-10-14

福岡天神支店 ☎092(712)0721
〒810 福岡市中央区天神3-4-10

鹿児島支店 ☎0992(25)2200
〒892 鹿児島市山之口町1-1

* 上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

724-800-003(K)FF①